



日本政策学生会議 2005
活動報告書¹

Apr. 2005 – Jan. 2006

<http://www.isfj.net/>

代表挨拶



ISFJ日本政策学生会議
10期代表 生島慎太郎

時下、ますますご発展のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。

皆様のご支援とご協力により、ISFJ日本政策学生会議は今年で10年目を迎え、
第10期運営委員による政策フォーラム2005は無事成功を収めることができました。

現在、我が国は多大な政策課題に直面しています。
それは経済問題にとどまらず、少子高齢化社会に直面した社会保障問題、
グローバル化の中での日本産業、外交・安全保障問題、環境問題など多岐にわたっています。

こうした問題の解決を目指し、私たちは政策フォーラムをはじめとした様々な企画の開催によって
学生と政策を結ぶ機会を創出するとともに、
既存の組織の垣根を越えた議論の場を提供してまいりました。

これからも私たちは、有効な政策立案のインフラとなる「知的ネットワーク」形成のための取り組みの
一環として、様々な企画を開催していきます。
そして、私たち自身も学生だからこそできる大胆かつ自由な発想を盛り込んだ政策を発信し、
研究成果を社会へと還元することを目指して、あらゆる試みに挑戦して参ります。

本報告書は、昨年度のISFJ開催した勉強会・発表会・合宿・政策フォーラムの開催結果のご報告を
行うとともに、より多くの皆様にISFJの取り組みをご理解いただくことを目的として作成したものです。

ぜひとも別冊の「運営報告書」と併せてご覧いただき、ISFJの理念・活動内容に共感いただくとともに、
来年度以降の活動においてもご高配を賜ることができれば幸いです。

今後とも、ISFJ日本政策学生会議および政策フォーラムを宜しくお願い申し上げます。

INDEX



1.	代表挨拶	1
2.	INDEX	2
3.	団体概要	3
4.	2005年度の企画方針と成果	4
5.	2005年度スケジュール	5
6.	参加ゼミ説明会とは	6
	参加ゼミ説明会[東日本]	7
	参加ゼミ説明会[西日本]	8
7.	ISFJ勉強会とは	9
	第一回勉強会[東日本]	10
	第二回勉強会[東日本]	11
	第三回勉強会[東日本]	12
	事前勉強会[西日本]	13
8.	ISFJ中間発表会とは	14
	中間発表会[東日本]	15
	第一回中間発表会[西日本]	16
	第二回中間発表会[西日本]	17
9.	政策合宿とは	18
	政策合宿2005	19
10.	政策フォーラムとは	20
	政策フォーラム2005 ~ 企画概要 ~	21
	政策フォーラム2005 ~ 分科会 構成 ~	22
	政策フォーラム2005 ~ 分科会 ゲスト ~	23
	政策フォーラム2005 ~ 分科会 構成 ~	24
	政策フォーラム2005 ~ 分科会 ゲスト ~	25
	政策フォーラム2005 ~ 分科会 構成 ~	26
	政策フォーラム2005 ~ 分科会 ゲスト ~	27
	政策フォーラム2005 ~ 分科会 構成 ~	28
	政策フォーラム2005 ~ 分科会 ゲスト ~	29
	政策フォーラム2005 ~ 共通政策提言 ~	30
	政策フォーラム2005 ~ 基調講演 ~	31
	政策フォーラム2005 ~ ゲスト講演 ~	32
	政策フォーラム2005 ~ ゲスト講演 ~	33
	政策フォーラム2005 ~ パネルディスカッション ~	34
	政策フォーラム2005 ~ パネルディスカッション ~	35
	政策フォーラム2005 ~ 特別基調講演 ~	36
	政策フォーラム2005 ~ 表彰と特典企画 ~	37
10.	創立10周年記念シンポジウムの概要	38
11.	企画担当者一覧	39
12.	2006年度へ向けて	40

団体概要

ISFJ (日本政策学生会議: Inter-university Seminar for the Future of Japan) とは

学生が運営する非営利政策シンクタンクです。

現在、11大学17研究会の学生が運営活動を行い、毎年「政策提言会議(政策フォーラム)」を開催し、実際の政策担当者を招いて、研究成果の発表・政策提言を行ってきました。

政策フォーラム2005においては、ISFJの活動に共感いただいた

24大学62研究会の学生が研究発表を行っており、**484人の学生**が参加いたしました。

学生団体が運営するカンファレンスとしては、日本でも有数の規模でフォーラムを開催しています。

私たちは、政策研究を行う学生自身の可能性を広げると同時に、学生の範疇にとどまらず研究成果を政策提言として広く社会に対してアウトプットを示すことで、

政策立案環境の向上に寄与することを理念として活動を行っています。

政策フォーラムにおいては、学生と国会議員・官僚・民間シンクタンク、企業人、大学教授の間で活発な意見交換が行われます。

ISFJは、学生とこれら**政策立案者・政策研究者の連携の媒体**となることを目指しています。

ISFJの経緯

ISFJは、1995年竹中平蔵研究会第4期生・中室牧子氏(元日本銀行調査統計局勤務)が全国の経済学を研究するゼミに呼びかけて設立されました。1997年2月に第1回「21世紀の日本を考える会」政策提言会議(現在ISFJ政策フォーラムの前身)を開催しました。2000年度には、6大学10研究会での政策提言会議でしたが、年々、参加学生の規模は拡大し、昨年度は19大学52研究会が参加、金融、財政、企業・産業といった経済政策だけでなく、社会保障、外交・安全保障、都市交通、環境など対象分野も多岐にわたり、各ゼミが論文を発表し、議論を行いました。12月の政策フォーラムには、橋本龍太郎元内閣総理大臣、杉浦正健法務大臣をはじめとして政界・産業界・学界、各方面からの政策担当者を招待し、政策提言を行いました。



2005年度の企画方針と成果

ISFJ 2005の企画方針

ISFJ 2005では「質の向上」と「社会的認知度の拡大」を目標としました。

(1) 勉強会の拡充 ~ 質の向上 (実現可能性) ~

通年で行われる勉強会の設計を「政策立案プロセス」と連動させようとしてコンテンツ・規模を拡充し、その回数を増やすことで、学生による政策提言における 実現可能性 の向上を目指しました。

(2) 政策合宿の刷新 ~ 質の向上 (自由な発想) ~

夏の一大イベントである政策合宿では、従来の企画内容を刷新。これから論文執筆に臨む学生の「日本への問題意識」を喚起し、「創造性」を刺激することをコンセプトに、提言における 自由な発想 の原点となるような内容を目指しました。

(3) 中間発表会の充実 ~ 質の向上 (実証分析) ~

現状分析結果の報告の場でもある中間発表会では、大学教授や研究員、大学院生などの専門家の皆様をお呼びし、参加学生の 実証分析 能力を高める機会を設けました。

(4) 政策フォーラムの開催 ~ 社会的認知度の拡大 ~

ISFJの最大イベントであり、年一回の提言の場である政策フォーラム。10回目の開催となる今年は、橋本龍太郎元内閣総理大臣、杉浦正健法務大臣をはじめとして政界・民間・学、各方面から多くの政策担当者を招待し、2日間にわたって政策提言を行いました。

以上の結果として、ISFJ 2005は**創立以来最大の規模**で一年間の運営を終えることができ、優秀政策提言は橋本龍太郎元首相をはじめとした多くの方々から評価いただくこととなりました。

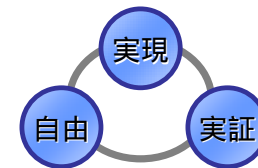
ISFJでは、今後も継続的に「質の向上」「社会的認知度の拡大」を図り、さらに価値ある政策提言を目標に活動を続けていきます。

ISFJが考える政策提言の「質」

ISFJでは、実証・自由・実現の3つのキーワードで提言の「質」を捉えています。

- 実証: 正確なデータや豊富な先行研究に根ざした論理的分析
- 自由: 専門的な見地や社会のしがらみに縛られない自由な発想
- 実現: 実現可能性の保たれたインパクトある政策提言

ISFJは、以上の3点が保たれた「質」の高い政策提言を目指します。



- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16
- 17
- 18
- 19
- 20
- 21
- 22
- 23
- 24
- 25
- 26
- 27
- 28
- 29
- 30
- 31
- 32
- 33
- 34
- 35
- 36
- 37
- 38
- 39
- 40

2005年度スケジュール

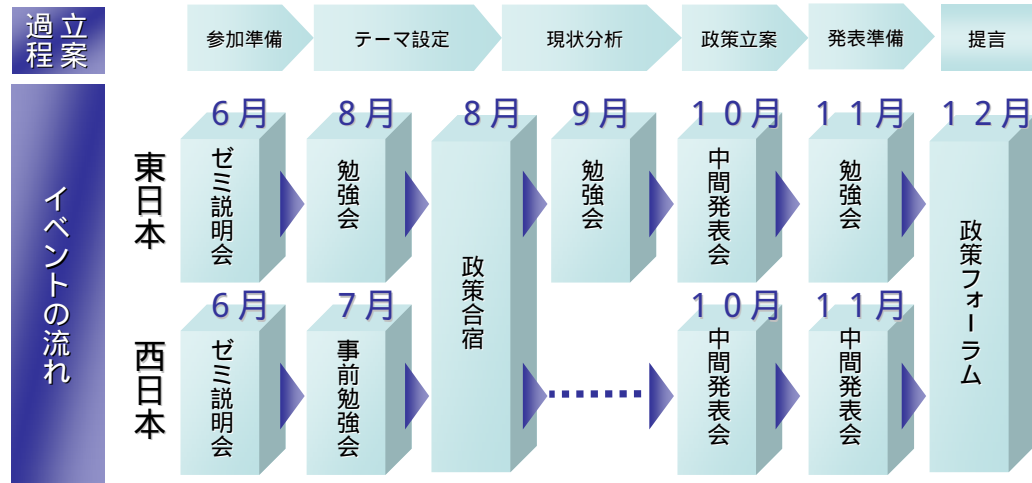
2005年度 企画スケジュール

2005年度は、夏の政策合宿(京都)、冬の政策フォーラム(東京)に加えて、東日本でゼミ説明会1回、政策勉強会3回(+1回)、中間発表会1回、西日本でゼミ説明会3回、政策勉強会1回、中間発表会2回、開催いたしました。

6月14日・18日・25日・26日	参加ゼミ説明会	9月24日	第2回ISFJ勉強会(東日本)
7月10日	参加ゼミ決定(申込書締切日)	10月22日	中間発表会(東日本)
7月31日	ISFJ事前勉強会(西日本)	10月23日	第1回中間発表会(西日本)
8月6日	第1回ISFJ勉強会(東日本)	11月23日	第2回中間発表会(西日本)
8月19~21日	政策合宿「平成維新」	11月26日	第3回勉強会(東日本)
		12月3日・4日	政策フォーラム2005



政策立案の各段階でそれぞれ必要な知識や技術が習得できるよう、勉強会・発表会が立案過程に対応する形で構成・編成されている点が、スケジュール上の特色となっています。



ゼミ説明会 P7~9	勉強会 P10~14	中間発表会 P15~18	合宿・フォーラム P19~37
---------------	---------------	-----------------	--------------------

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16
- 17
- 18
- 19
- 20
- 21
- 22
- 23
- 24
- 25
- 26
- 27
- 28
- 29
- 30
- 31
- 32
- 33
- 34
- 35
- 36
- 37
- 38
- 39
- 40

参加ゼミ説明会とは

参加ゼミ説明会の目的と概要

ISFに参加を検討しているゼミに対し、**理念と活動内容の詳細を伝える**ための説明会です。例年、全国のゼミの活動のスタート時期である4～6月に実施しています。

ISFでは、提供するプログラムに沿って、一年間をかけて政策提言をしていくゼミを募集するための活動を「**ゼミ渉外**」と呼んでいます。

ゼミ渉外活動は、日本全国のゼミにISFの活動内容にご理解いただくとともに、「学生の政策提言によって社会を変えていく」という理念に共感いただき、ともに政策分析・政策提言に取り組んでいく学生やゼミの輪を広げていくことを目的としております。このゼミ渉外活動の一環として、**全国のゼミを一同に集め、大々的に説明を行う**イベントが参加ゼミ説明会です。



参加ゼミ説明会の成果

ISF2005の参加ゼミ説明会は、西日本において大幅な拡充をおこないました。**大阪**での説明会に加え、**京都**、**九州**で説明会を実施し、名古屋大学をはじめとした**中部地方**の大学のゼミに対しても積極的なアプローチを試みました。また、東日本では、明治大学で実施したゼミ説明会において衆議院議員によるレクチャーを盛り込むなど、**内容面での充実**を図りました。

結果として、ISF2005には**24大学62研究会484名**の学生が参加することとなり、最終的に提出された**提言論文の数は95本**にのぼりました。昨年度比**5大学10研究会18論文の増加**で、いずれも創立以来最大となっています。



参加ゼミ説明会 [東日本]

参加ゼミ説明会 [東日本] の概要

ISFJに2005年度継続参加予定もしくは新規参加予定のゼミに対して説明会を行い、2005年度のISFJ方針について理解していただき、ISFJへの参加を検討していただくことを目的として、6月に開催いたしました。



企画構成

- 1部: ISFJの概要説明
- 2部: ゲスト講演 (2本)
- 3部: 諸連絡・質問

開催日時

6月18日(土) 15:00 ~ 18:00

開催場所

明治大学御茶ノ水キャンパス

参加ゼミ・大学・学生数

48ゼミ・13大学・102名

参加ゲスト一覧 (計2名)

- 松原 仁 様 (民主党衆議院議員)
- 佐伯 勇介 様 (中央大学総合政策学部横山彰研究会所属)

企画責任者

- 高橋由佳 (慶應義塾大学経済学部島田ゼミ)
- 松山広樹 (慶應義塾大学商学部跡田ゼミ)

企画責任者より



第1部

ISFJの概要説明を行った。内容としてはISFJの団体理念、12月までの活動内容等である。アンケートによると96%の参加者が説明会によってISFJへの内容理解ができたと回答している。当日参加のゼミなど予想より多くの来場者が訪れ会場はいっぱいとなった。

第2部

ISFJに参加する意義を考えてもらうために実際に政策に携わっている方の声と昨年度ISFJに参加して下さった先輩からお話を伺う機会を設けた。特に、ゲスト講演の松原仁衆議院議員へは政策に関する多くの質問が飛び交い熱気があふれるものとなった。

(講演内容)

松原仁衆議院議員からは若者が政策提言を行う意義についてお話をいただいた。実際に関わっている政策「北朝鮮による拉致問題等に関する特別委員会」の例など交えながら明解な講演をしていただき、参加した学生からは質問が相次いだ。次に行った学生講演では昨年度参加した佐伯様より、ISFJに参加することにより得られたものとして「政策を考える意義、論文の書き方、グループワークの苦労、他大学との友情」など実体験を交えながら講演していただいた。実際に参加されていた方のお話であったため、よりISFJに参加するイメージが具体的に想像できたと見える。

第3部

参加するにあたっての事務的手続きの話を主に行った。参加同意書の提出方法、また、共通政策提言と自由論文の違いなど第1部では説明しきれなかった細かい部分の説明までを行った。質問時間も設け、参加ゼミの不明であった点を解消した。

参加ゼミ説明会 [西日本]

参加ゼミ説明会 [西日本] の概要

新期参加ゼミも含め、今年度の参加ゼミにISFJの活動や年間の流れを説明し、参加を呼びかけることを目的に、昨年度参加者の体験談も合わせて企画に盛り込んで行われました。

企画構成

- 1部: ISFJとは
- 2部: 政策フォーラムの概要
- 3部: 政策フォーラムまでの流れ
参加同意書の説明

開催日時

6月25日(土) 14:00 ~ 15:10

開催場所

大阪大学豊中キャンパス

参加ゼミ・大学・学生数

11ゼミ・6大学・30名

参加ゲスト一覧(計2名)

- 今村 美奈子 様 (大阪大学 山内直人ゼミ)
- 大西 尚子 様 (関西大学 前川聡子ゼミ)

企画責任者より



企画のコンセプト

ISFJの活動を説明し、ゼミへの参加を呼びかける。ISFJの知名度を上げるためには参加ゼミの拡大が必要であり、また西日本ゼミの拡大によってISFJの活性化を目指すという目的の基、2日連続開催の1会場目である。

当日の雰囲気

運営者8名。和やかな雰囲気が進み、名古屋からの参加者もあった。アンケートからも昨年度の体験は非常に参加者に満足していただけだと思う。昨年度先輩の体験談を盛り込むなど、運営の立場ではなく、参加者の立場でISFJの活動内容を伝えていただけたのがよかった。

参加者の反応

「まじめに全力で論文作成に打ち込む良い機会なので」、「やりがいがある」など前向きな意見が多く、参加者のモチベーションは高い。参加を迷っている参加者の多々あり、「まだゼミ生の意見がまとまっていないため」、「まだ論文を書いたことがないため」、「今日の説明をゼミに伝えてから決めようと思います」などという意見が出た。また4回生の意見もあり「まだ全員が就活を終わっていないため」という意見もあった。継続ゼミは先輩から多くの情報が伝わっていることもあり、理解は深いですが、新規ゼミは迷っているゼミが多いので、事前にISFJの活動が決まっていることが大前提である。

企画責任者

- 佐々木儀広 (大阪大学経済学部本間ゼミ)
- 北尾友佑 (関西大学経済学部前川ゼミ)

西日本支部では、同様の説明会(一部異なります)を

6月14日(火) 九州大学箱崎キャンパス

6月26日(日) 京都大学文学部新館

においても実施致しました。



ISFJ勉強会とは

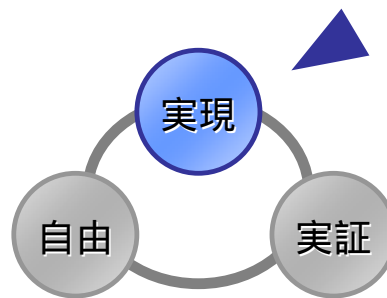
ISFJ勉強会の目的と概要

ISFJに参加を決定したゼミに対し、**政策立案・提言の実現可能性を高めてもらう**ための勉強会です。例年、論文執筆時期である8～11月に実施しています。

ISFJでは、政策提言論文の質を大きく「実現可能性」「発想の自由さ」「実証分析の精度」の3点で捉えており、これらの要素を満たしながら政策論文を書き上げ、12月の政策フォーラムでインパクトある提言を行うことが参加ゼミの目標となっています(4ページ参照)。

そして、これらの要素うち、主に「実現可能性」の向上を狙いとして、**政策立案過程の把握、意見交換による問題意識の相対化、プレゼンテーション技法の習得**、など様々なノウハウを学ぶ場がISFJ勉強会となっています。

具体的には、各方面から専門家の方をゲストとしてお迎えし、**レクチャー形式**ないし**発表形式**で専門スキルを習得すると共に、**学生同士の議論**によってその理解を深める機会を提供しています。



参加ゼミ説明会の成果

ISFJ勉強会	
東日本	
第一回勉強会	～政策の立案と提言のプロセスを学ぶ～
第二回勉強会	～問題意識を相対化させる～
第三回勉強会	～プレゼンテーション技術を習得する～
西日本	
事前勉強会	～提言論文執筆方法を知る～

ISFJ2005のISFJ勉強会は、東日本において3回、西日本において1回実施致しました。東日本ではそれぞれ「政策立案過程」「問題意識」「プレゼンテーション」をテーマに、西日本では「政策提言論文」をテーマに実施致しました。

結果として、ISFJ2005の勉強会には、延べ**38大学114研究会484名**の学生が参加することとなりました。

第一回勉強会 [東日本]

第一回勉強会 [東日本] の概要 ~ 政策の立案と提言のプロセスを学ぶ ~

第一回勉強会 [東日本] は、12月3日、4日に行われる政策フォーラム2005に参加するゼミが、論文の質を向上させる、ISFJに対する理解を深める、参加者同士の親睦を深めることを目的に行われました。



企画構成

- 1部: ISFJに対する理解を深めるための説明
- 2部: 政策立案の方法を学ぶグループワーク
- 3部: 論文執筆の技術を学ぶレクチャー

開催日時

8月6日(土) 13:00 ~ 18:15

開催場所

慶應義塾大学三田キャンパス

参加ゼミ・大学・学生数

38ゼミ・11大学・145名

参加ゲスト一覧(計6名)

- 福島 慶三 様** (環境省 大臣官房総務課 内閣官房 構造改革特区推進室 地域再生推進室/内閣府 構造改革特区担当室 地域再生事業推進室 以上併任 主査)
- 西山 敏樹 様** (慶應塾大学政策・メディア研究科講師(特別研究教員) 財団法人地域開発研究所客員研究員)
- 松下 玲子 様** (民主党 都議会議員)
- 岡本 義朗 様** (UFJ総合研究所 新戦略部 主席研究員)
- 田畑 壽邦 様** (UFJ総合研究所 経営情報開発本部総合相談部 部長代理)
- 戸崎 肇 様** (明治大学商学部教授)

企画責任者

- 鈴木雅之** (慶應義塾大学商学部跡田ゼミ)
- 古賀佑美** (中央大学総合政策学部横山ゼミ)
- 竹中恵実** (中央大学総合政策学部横山ゼミ)

企画責任者より

企画概要



第1部:

ISFJの目的、年間計画等の参加者理解を深めるための説明を行った。これを通じて参加者のISFJに対する理解が深まったと考えられる。

第2部:

3分野でそれぞれ教室に分かれ(教室内でさらに5グループほどに分かれ)、政策提言のプロセスを体感するためのグループワークを行った。実際に政策立案に携わっているゲストのレクチャーを受けながらグループワークを行うことで、参加者各位の政策立案能力が向上したと考えられる。またグループワークを通じて参加者間の親睦が深まった。

講演要旨

第3部:

「学生による政策提言の必要性、ISFJにおける論文の書き方」というテーマの講演を明治大学戸崎肇教授にさせていただき、その後「論文の評価基準について」の説明をしていただいた。参加者はこの講演を通じて、学生の政策提言の必要性を再確認するとともに、実際の論文の評価基準を認識することで論文の方向性が定まったと考えられる。

第二回勉強会 [東日本]

第二回勉強会 [東日本] の概要 ~ 問題意識を相対化させる ~

第二回勉強会 [東日本] は、勉強会は、12月3、4日に行われる政策フォーラム2005に参加するゼミに、到達目標の再確認、問題意識の相対化、現状分析手法の学習を通じて、より質の高い政策を立案することを目的に行われました。

企画構成

- 1部: 昨年度優秀論文発表 (到達目標再確認)
- 2部: 研究方向性の発表 (問題意識の相対化)
- 3部: 講演 (現状分析手法の学習)

開催日時

9月24日(土) 13:00 ~ 17:30

開催場所

慶應義塾大学三田キャンパス

参加ゼミ・大学・学生数

29ゼミ・9大学・152名

参加ゲスト一覧 (計18名)

- | | | |
|--------|---|--|
| 祝 朋宏 | 様 | (横浜市立大学藤野研究会、第1部講演) |
| 飯島 淳 | 様 | (千葉大学倉敷ゼミ院生、環境分科会) |
| 南部 和香 | 様 | (明治大学水野ゼミ院生、環境分科会) |
| 藤岡 隆雄 | 様 | (金融庁検査局総務課 政策係長、金融分科会) |
| 溜川 健一 | 様 | (明治大学千田ゼミ院生、金融分科会) |
| 西山 敏樹 | 様 | (慶應義塾大学特別研究員、都市交通分科会) |
| 沖川 弘毅 | 様 | (内閣官房 構造改革特区推進室 地域再生推進室、市場整備分科会) |
| 戸田 淳仁 | 様 | (慶應義塾大学島田ゼミ院生、社会保障分科会) |
| 津田 夏樹 | 様 | (財務省主税局総務課 調査主任、国際金融分科会) |
| 小林 献一 | 様 | (経済産業省 通商政策局・通商機構部参事官補佐 政策分析ネットワーク・事務局長補佐、国際金融分科会) |
| 田中 紀子 | 様 | (外務省 国際情報統括官組織 第三国際情報官室、国際金融分科会) |
| 伊藤 万里 | 様 | (慶應義塾大学若杉ゼミ院生、国際金融分科会) |
| 風間 法子 | 様 | (松下政経塾、東アジア分科会) |
| 田幸 大輔 | 様 | ((社)経済同友会、政策調査部マネジャー、東アジア分科会) |
| 杉本 様 | 様 | (株式会社三井物産、東アジア分科会) |
| 前川 桂恵三 | 様 | (松下政経塾、地方分権分科会) |
| 福田 慎 | 様 | (明治大学千田ゼミ院生、地方分権分科会) |
| 梁川 国彦 | 様 | (LEC大学 総務部官公庁課 課長、第3部講演) |

企画責任者

- 北原浩一 (慶應義塾大学経済学部櫻川ゼミ)
- 志田原瑛 (慶應義塾大学商学部跡田ゼミ)



企画責任者より



第1部

当日は横浜市立大学藤野研究会祝様 (ISFJ OB) からの20分の論文発表と、論文作成のアドバイス、参加ゼミからの質問という形式で行われた。当日、参加ゼミ生が熱心にメモをとる様子が見られた。また、積極的な質問も目立った。(講演内容)

昨年度優秀論文「郵政事業民営化への提言 利用者にメリットのある民営化とするために」の発表。その後、論文作成におけるアドバイス (テーマ設定時は問題意識を明確に、現状分析に注力せよ、計量分析は入れるべき、政策実行におけるメリット・デメリットの明確化とシュミレーションの必要性) をいただいた。質疑応答では、フィールドワークなどの現状分析手法についての質問があった。

第2部

各研究会の『研究方向性の発表』がメインとなり、質問とコメントを通じてよりよい論文にしようという目的のもと行われた。教室によって3-6ゼミがグループになり、ゲスト講師1-2名を交えて発表をした。アンケートより、ゲストのコメントに対する参加者の満足度が高かった。

第3部

株式会社東京リーガルマインド様より講師3名にお越しいただき、現状分析手法についての講演が行われた。アンケートからも第3部の満足度はまずまずだったが、第3部ということで疲労困憊したという意見も散見された。運営側としては、参加者のためにも、またお越しいただくゲストの皆様のためにも、企画間のつながりを配慮し、バランスある企画編成を行うことの重要性を感じた。

第三回勉強会 [東日本]

第三回勉強会 [東日本] の概要 ~ プレゼンテーション技術を習得する ~

第三回勉強会 [東日本] は、勉強会は、12月3、4日に行われる政策フォーラム2005に参加するゼミが政策担当者に対し効果的に政策提言する能力を養うことを目的に、任意参加の企画として行われました。

企画構成

- 1部: プレゼンテーション・セミナー
- 2部: プレゼンテーション練習
- 3部: 企画立案セミナー (任意参加)

開催日時

11月26日(土) 13:00 ~ 17:30

開催場所

慶應義塾大学三田キャンパス

参加ゼミ・大学・学生数

28ゼミ・8大学・85名

参加ゲスト一覧 (計16名)

高田 貴久 様	(米国系コンサルティングファーム所属、「ロジカル・プレゼンテーション」著者)
鶴岡 謙吾 様	(株式会社 ネットマイニングジャパン 代表取締役)
坂野 嘉郎 様	(東京大学先端科学技術研究センター 黒川清研究室 協力研究員)
胎中 康幸 様	(NEC UNIVERGEソリューション推進本部)
中村 洋介 様	(有限会社 Fan and Company 取締役COO)
渡部 陽 様	(株式会社 ユーキャンバス 代表取締役)
福井 尚和 様	(日本カウンセラー学院 特別講師)
渡辺 崇之 様	(トヨタ自動車株式会社中国部)
畑田 康二郎 様	(経済産業省 資源エネルギー庁総合政策課)
池田 慈生 様	(株式会社 アクセンチュア 戦略グループコンサルタント)
木村 智浩 様	(株式会社 ガイアックス)
栗林 大介 様	(日本カウンセラー学院 理事)
三木 奈津子 様	(株式会社リクルート 人事部)
向井 悠紀子 様	(株式会社リクルート 人事部)
小西 航太 様	(株式会社リクルート 人事部)

企画責任者

- 前島慎太郎 (慶應義塾大学経済学部若杉ゼミ)
- 瀬間浩昭 (明治大学商学部戸崎ゼミ)
- 北原浩一 (慶應義塾大学経済学部櫻川ゼミ)

企画責任者より



第1部

まず、良いプレゼンテーションはどのようなものか理解するために、プレゼンテーションに定評のある高田貴久様にお越しいただき、資料作成能力と伝える力を向上させるための講義を行っていただいた。高田様は、基本的だが重要なことを非常にわかりやすく説明してくださり、参加者からはためになる講義であり非常に良かったとの声が多数あった。

(講演内容)

高田様は本勉強会の趣旨である「伝える力」に的を絞ってお話をしていただいた。具体的には「資料作成能力」と「提案の実践力」の二つに大別され、前者に関してはスライド資料の作り方、スライドに書くべき内容など、そして後者に関してはプレゼンテーションの際の話し方や立ち方など細かな部分にも丁寧なお話をされていた。その内容はプレゼンテーション以外の機会にも役立つ、今後の人生に役立つといっても決しておおげさでない内容だった。

第2部

第1部の内容をより深く理解するため、そして発表本番の感覚をつんでもらうために、参加ゼミによる発表を行った。純粋にプレゼンテーション能力向上を目的とした勉強会ゆえ、ゲストは発表内容に関する専門家ではない方でプレゼンテーションに長けている方、発表ゼミも分科会ごとではなくランダムな組み合わせにした。ゲストによる講評も、プレゼンテーション能力向上に必要なことに絞っていただいた。参加者からは、普段気がつかないことで重要なことや、スライドの作り方など、これからの的確なコメントをいただけてよかった、との声が多かった。

第3部

様々な場で必要な「企画案をロジカルな思考で組み立て、自分の案のアピールポイントを相手に効果的に伝えるスキル」を、ISFJ勉強会の企画立案を通して身につけるもの。グループワークのフィードバックをゲスト様よりいただいた。運営委員も交えて来年度の企画立案のグループワークが行われた。短時間で企画立案で当初達成困難かと思われたが、各チームよい案を出すことができていた。株式会社リクルートよりお越しいただいたゲスト様からのフィードバックにも、参加者の満足度は高かった。



事前勉強会 [西日本]

事前勉強会 [西日本] の概要 ~ ISFJ の活動と提言論文執筆方法を知る ~

事前勉強会 [西日本] は、ISFJ のオリエンテーションとしての位置づけられ、参加者のモチベーションを高めることを目的に行われました。グループディスカッションで参加者同士の交流もしつつ、ISFJ に対する論文の理解を論文講座や論文発表で深めてもらうことを目指しました。

企画構成

- 1部: 参加ゼミ顔合わせ・論文指導講座
- 2部: 昨年度優秀論文の発表
- 3部: グループディスカッション

開催日時

7月31日(日) 13:00 ~ 17:00

開催場所

神戸大学瀧川記念学術会館

参加ゼミ・大学・学生数

19ゼミ・10大学・102名

参加ゲスト一覧 (計8名)

- | | |
|----------|-----------------------------|
| 前川 聡子 様 | (関西大学経済学部助教授) |
| 北浦 義朗 様 | (大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程) |
| 上田 昌史 様 | (関西大学経済・政治研究所RCSS) |
| 小川 亮 様 | (大阪大学大学院経済学研究科経済学専攻博士後期課程) |
| 石田 祐 様 | (大阪大学大学院OSSIP(山内研究室)博士後期課程) |
| 小野 由舞子 様 | (関西大学 総合情報学部 鶴飼ゼミ) |
| 阿部 麻衣子 様 | (関西大学 経済学部 前川ゼミ) |
| 大西 尚子 様 | (関西大学 経済学部 前川ゼミ) |

企画責任者

山根まどか (同志社大学経済学部伊多波ゼミ)

企画後の感想

全体としていい企画だったと思う。アンケートでは「色々な立場の人と会えることでよい刺激になった」、「今回のような勉強会がいい。とても勉強になった。」、「G Dと講評はとても為になった」などの意見が多かった。しかし事前の準備が遅れたり、ゲストの対応に不備があったり、初めての企画で至らない点が多々あった。ゼミ説明会などでゲスト対応の練習をしておくとなおよい。また今回の参加型の企画は参加者のひとつのきっかけになり、刺激にもなるので11期でも是非実現したい。

企画責任者より



第1部

参加ゼミ自己紹介と前川先生の論文指導講座。ISFJでの初顔合わせのイベントであり、最初は緊迫した雰囲気であったが、自己紹介で多少和らいだのではないだろうか。前川先生には昨年に引き続き講座を担当していただいた。

(講演内容)

良い論文のポイント(テーマ:問題把握は適切か、分析したいことは明確か、分析について:妥当か、オリジナルか。提言について:分析と整合性か) 論文を作っていくために必要な作業(現状把握、問題意識の明確化、分析目的・内容の決定、過去の提言・分析の調査、「売り」の決定)

論文の構成(はじめに、現状・議論、既存の研究・調査・提言について、独自分析の内容とその結果、むすび・・・まとめと政策提言)。最後に財政赤字の具体例で説明していただいた。

第2部

昨年度優秀論文の発表。鶴飼ゼミと前川ゼミの先輩にご協力いただき、今年度参加者にプレゼンをしていただいた。参考になったという意見は多かったが、2本は多かったのか、寝てしまう人もいた。

(企画内容)

昨年度優秀論文の発表。鶴飼ゼミ「観光産業による地域経済活性化」と前川ゼミ「未納者をなくそう(年金)」ISFJでの発表とはほど内容の提言をしていただいた。詳細はISFJホームページの論文ライブラリ参照

第3部

グループディスカッション。受身の企画ではなく参加者主体的な活動だったので、大変好評だった。またゲストのコメントも大変参考になったという意見も多かった。雰囲気は一番よく、ISFJに入るきっかけになったといつてよい。

(企画内容)

前川ゼミの先輩の論文についてディスカッションをしていただいた。チェックリストは この論文の問題意識は 過去の研究をよく調べているか 分析結果で興味を持った点は 政策提言は分析結果をうまく使えているか、無理があるか?政策は現実的に可能かの4点。各チームごとに代表者がディスカッションの内容を報告。最後にゲストからの講評をお願いした。



ISFJ中間発表会とは

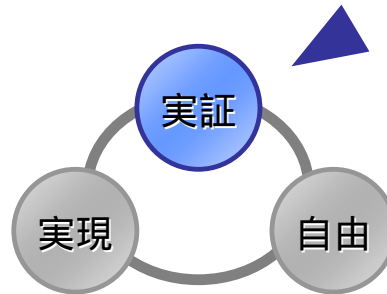
ISFJ中間発表会の目的と概要

政策立案のための現状分析を進めている段階のゼミを対象に、**分析レベルをさらに高める**ために、専門家からのアドバイスや同分野の研究課題を扱うゼミからの意見を得るための発表会です。例年、論文執筆期の中間以降(10~11月)に実施しています。

ISFJでは、政策提言論文の質を大きく「実現可能性」「発想の自由さ」「実証分析の精度」の3点で捉えています(4ページ参照)。

これらの要素うち、主に「実証分析の精度」の向上を狙いとして、進捗報告の形式で**それまでの研究成果を振り返る**と共に、ゲストの皆様からの講評や同分野を研究するゼミとの議論を通して、**その後の政策立案方針を考える**場を提供するのがISFJ中間発表会の役割となっています。

また、それぞれの分科会が最終的に確定するのは10月中旬の中間発表会です。従いこの時期に、東日本ではアイスブレイキングのための企画(合同MT)を併せて開催しています。



参加ゼミ説明会の成果

ISFJ中間発表会	
東日本 中間発表会	～発表・意見交換を通して仮説を検証する～
西日本 第一回中間発表会	～発表と質疑を通して仮説を検証する～
西日本 第二回中間発表会	～フォーラムに向けた実践練習をする～

ISFJ2005の中間発表会は、東日本において1回、西日本において2回実施致しました。東日本では「仮説検証」をテーマに、西日本では「仮説検証」「プレゼンテーション」をテーマに実施致しました。結果として、ISFJ2005の勉強会には、**延べ36大学83研究会522名**の学生が参加することとなりました。

西日本の第二回中間発表会は「勉強会」としての要素も含まれていますが、レクチャー形式をとっていないため発表会と位置づけています。

中間発表会 [東日本]

中間発表会 [東日本] の概要 ~ 発表・意見交換を通して仮説を検証する ~

中間発表会 [東日本] は、(1) 研究成果の発表と (2) 意見交換の場を参加ゼミに提供し、12月3日、4日の政策フォーラムにおいて発表する論文の作成に生かしてもらうことを目的に行われました。



企画構成

1部: 参加ゼミ合同ミーティング

(共催: 住商リース株式会社様)

2部: 分科会別中間発表会

開催日時

10月22日(土) 12:30 ~ 18:00

開催場所

慶應義塾大学三田キャンパス

参加ゼミ・大学・学生数

33ゼミ・11大学・250名

参加ゲスト一覧 (計24名)

金融システム分科会

- 櫻川 昌哉 様 (慶應大学経済学部教授)
- 藤岡 隆雄 様 (金融庁検査局総務課調査企画係長)
- 津田 栄 様 (日本危機管理学総研)

財政金融政策分科会

- 田畑 壽邦 様 (UFJ 総合研究所)
- 岡本 義朗 様 (UFJ 総合研究所)

地方分権分科会

- 山田 なおこ 様 (杉並区区議会議員)
- 前川 桂恵三 様 (松下政経塾)

国際協力分科会

- 田幸 大輔 様 (政策分析ネットワーク)

企画責任者

- 根本賢人 (早稲田大学政治経済学部藪下ゼミ)
- 奥見昌彦 (慶應義塾大学経済学部島田ゼミ)

企画責任者より



第1部

参加ゼミの中で、テーマの近いゼミを集め交流をしてもらうことを目的として企画を行った。ひとつのテーマについて、大学の垣根を越えた盛んな議論が行われ、参加者の多くが刺激を受けていたと思われる。

(企画内容)

住商リース株式会社様とのタイアップ企画

【1】グループディスカッション『早期離職率の増加の社会的要因』

参加者によるグループディスカッションの後、住商リース様が選んだ班の代表者がそれぞれの意見を発表。

【2】個人ワーク『就職で会社を選ぶ際の価値基準』

テーマについて数人の参加者に考えを発表。その意見を受けて、住商リース人事部の方から「自分が就職の際大事にしていた価値基準」についてご講演していただいた。

第2部

分科会ごとに分かれ、現時点での研究成果の発表を行った。また、実際に政策立案の現場に携わっているゲストから論文内容についてレクチャーを受けたことで、参加ゼミからは「モチベーションの向上につながった」などの声を聞くことができた。

国際金融分科会

- 池田 大輔 様 (日本銀行)
- 細川 敬一郎 様 (メルリンチマーケティング投資信託顧問)
- 瀧村 晴人 様 (財務省国際局為替市場)

国際貿易分科会

- 千田 亮吉 様 (明治大学教授)
- 田中 紀子 様 (外務省)

環境分科会

- 須藤 智徳 様 (日本評価学会正会員
財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)
気候政策プロジェクト主任研究員)
- 中山 元太郎 様 (環境省)

都市交通政策分科会

- 西山 敏樹 様 (慶應義塾大学
(SFC/大学院政策・メディア研究科講師
(特別研究教員))
- 奥田 恵子 様 (財)運輸調査局調査研究センター
副主任研究員)

少子高齢化・労働・雇用分科会

- 山田 修 様 (日本キャリア開発協会会員 CDA)
- 橋 秀徳 様 (衆議院議員原口一博事務所
政策担当秘書)

医療介護分科会

- 坂野 嘉郎 様 (黒川清事務所業務・政策秘書)

参加ゼミ合同ミーティング

- 小沼 憲一郎 様 (住商リース株式会社人事部課長代理)
- 堀 晃子 様 (住商リース株式会社人事部副主任)
- 山本 清 様 (住商リース株式会社人事部副主任)
- 豊田 健作 様 (住商リース株式会社人事部)

第一回中間発表会 [西日本]

第一回中間発表会 [西日本] の概要 ~ 発表と質疑を通して仮説を検証する ~

第一回中間発表会 [西日本] は、事前に提出していただいた中間報告書を基に各グループで発表し、質疑応答・講評により論文の質を高めてもらうことを目的に行いました。



企画構成

1部: 分科会別中間発表会

開催日時

10月23日(日) 13:00 ~ 17:30

開催場所

神戸大学国際文化学部キャンパス

参加ゼミ・大学・学生数

25ゼミ・13大学・117名

参加ゲスト一覧 (計12名)

第1班

杉田 水脈 様 (西宮市職員健康福祉局)
木下 信 様 (同志社大学大学院博士後期課程)

第2班

前川 聡子 様 (関西大学助教授)
乾 喜一郎 様 (株式会社リクルート)
高橋 淳一 様 (京都大学大学院博士後期課程)

第3班

西山 博幸 様 (近畿大学助教授)
八代 尚光 様 (経済産業省経済産業政策局調査課)

企画責任者

広瀬貴章 (京都大学経済学部吉田ゼミ)

企画責任者より



企画の狙い

ゲストの有識者から意見・アドバイスをいただくことにより、論文の質の向上を図る。
事前に他大学の論文の内容を把握することで、当日のディスカッションへ備える。
他の提言を知ること、自分たちの方向性を再確認する。
学生自身が他の論文に質問をぶつけることで質問する側、される側、互いに刺激し合う。
論文参加ゼミの進捗状況を管理する。

企画構成

{ 発表(10分, 2 or 3 班) 質疑応答(15~20分)
講評(15~20分) } x 3

第4班

田中 恒夫 様 (株式会社グンゼCSR推進室)
上田 昌史 様 (関西大学経済・政治研究所研究員)

第5班

杉原 茂 様 (大阪大学教授)
今村 岳司 様 (西宮市議会議員)
上田 紘嗣 様 (滋賀県総務部自治振興課)

第二回中間発表会 [西日本]

第二回中間発表会 [西日本] の概要 ~ フォーラムにむけた実践練習をする ~

第二回中間発表会 [西日本] は、政策フォーラムに向けての実践練習の場で、各ゼミが論文の内容や発表を客観的に判断してもらうことを目的に行いました。



企画構成

1部: プレゼンテーション実践練習

開催日時

11月23日(水) 13:00 ~ 18:00

開催場所

同志社大学新町校舎

参加ゼミ・大学・学生数

22ゼミ・12大学・155名

参加ゲスト一覧 (計5名)

木下 信 様 (同志社大学大学院博士後期課程)

吉田 素教 様 (大阪府立大学)

葉原 壽人 様 (京都産業大学経済学部教授)

上田 昌史 様 (関西大学経済・政治研究所研究員)

石田 祐 様 (大阪大学大学院
国際公共政策研究科博士後期課程)

企画責任者

桑井久輝 (大阪大学経済学部山内ゼミ)

企画責任者より



企画の狙い

政策フォーラムに向けての実践練習の場と位置づけ、各ゼミが自分たちの論文や発表を客観的に審査・判断してもらい、それを改善していくことによって、本番での発表をよりよいものにすることを主眼とした。

企画構成

内容の似通った論文ごとに5部屋に分かれ、一班ずつ発表して、学生による質疑応答の後、ゲストの方から質問やコメントをいただいた。最後に各班のプレゼンに対して評価をしてもらうため、簡単な評価シートの記入をしてもらい、その場でフィードバックした。参加者からは、「ゲストが複数人いたほうが良い」、「指摘されたことを論文に反映するため、開催時期を論文提出前にしてもらいたい」といった意見がよせられた。



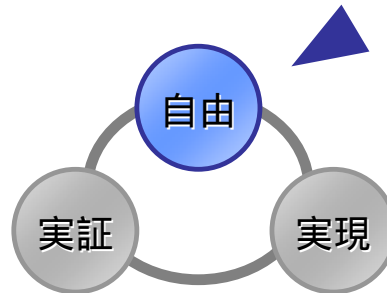
政策合宿とは

政策合宿の目的

全国各地のゼミが寝食を共にして政策について議論し、また政策立案・運用に携わる方々との間で活発に意見を交わす中で、**政策への理解を深め、社会への問題意識を研ぎ澄ませるための2泊3日の合宿**です。例年、夏季休暇中である8月の中旬に実施しています。

ISFJでは、政策提言論文の質を大きく「実現可能性」「発想の自由さ」「実証分析の精度」の3点で捉えています(4ページ参照)。これらの要素うち、「発想の自由さ」というISFJが最も重視する部分に焦点をあて、これから政策提言に取り組もうとしている**学生の創造性を刺激**する場が政策合宿となっています。

論文執筆の初期であること、また、夏季休暇中で運営・参加学生双方が比較的準備に余裕を持ちやすいことから、毎年異なるテーマのもと**ISFJの先進的な企画・試みを実践する場**としても位置づけています。



政策合宿2005

政策合宿

【毎年8月中旬 関西で開催】

社会への問題意識を研ぎ澄ませる
学生の創造性を刺激する
ISFJの新たな企画をクリエイトする

ISFJ2005の政策合宿は、若い世代が再び社会の革新の担い手となっていくことを目指して「平成維新」というテーマを掲げ、「**クリエイティブと原点回帰**」をキーワードに、講演、フィールドワーク、アート・パフォーマンスを組み合わせるといふ、歴代のISFJ企画に類例の無い新たな試みを実施致しました。

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16
- 17
- 18
- 19
- 20
- 21
- 22
- 23
- 24
- 25
- 26
- 27
- 28
- 29
- 30
- 31
- 32
- 33
- 34
- 35
- 36
- 37
- 38
- 39
- 40

政策合宿2005

政策合宿2005「平成維新」の概要 ～ 原点回帰とクリエイティブ～

政策合宿2005は、同志社大学において2泊3日の合宿形式で開催しました。講演、フィールドワーク、アートパフォーマンスを中心に構成し、参加者にとってインパクトある企画となることを目指しました。



企画内容

講演 × 2
グループワーク（フィールドワーク形式）
アート・パフォーマンス

開催日程

8月19日(土) ~ 21日(月)
(2泊3日 / 合宿形式)

開催場所

同志社大学衣笠キャンパス

大学・学生・グループ数

17大学・130名・15グループ

参加ゲスト一覧 (計5名)

竹中 平蔵 様 (経済財政政策・郵政民営化担当大臣)
岸 博幸 様 (経済財政政策・郵政民営化担当大臣
秘書官・慶應義塾大学大学院助教授)
今村 岳司 様 (西宮市議会議員)
矢部 澄翔 様 (書道家)
鈴木 英敬 様 (経済産業省)
深宮 智史 様 (経済産業省)

企画責任者

篠原土虞馬 (大阪大学経済学部本間ゼミ)
前田雄志 (同志社大学経済学部伊多波ゼミ)

企画構成

1日目(19日)

13:00 受付開始
14:00 開会式
14:55 講演
講演 「政治と政策と今の日本とこれからの日本」
講師：岸 博幸 様
特別講演「政策を学ぶ学生達へ」
講師：竹中 平蔵 様
講演 「政策とクリエイティブ」
講師：今村 岳司 様
18:00 グループワーク開始



2日目(20日)

9:00 フィールドワーク活動計画書提出
10:00 フィールドワーク開始

3日目(21日)

10:00 キャッチコピーの選定
11:00 キャッチコピーの発表
12:15 キャッチコピーの投票
13:00 ゲストコメント
14:50 最優秀キャッチコピーの発表
15:00 アート・パフォーマンス
(コラボレーション企画)
15:45 閉会式
16:00 解散

グループワークの試み

政策合宿2005のメイン企画であるグループワークは、全国から集まった学生達がチームを組み、京都市街を散策しながら今の日本の政治経済の諸問題について意見交換し、そこから見えてきた今後の日本のあるべき姿を「キャッチコピー」として表現し、発表しあう、というものでした。さらに、その中で最も共感の得られたコピーを「書」として表すというパフォーマンスを行い、参加者の記憶に残すという試みを行いました。

企画の詳細につきましては、西日本支部作成の『「平成維新」開催報告書』をご参照ください。

政策フォーラムとは

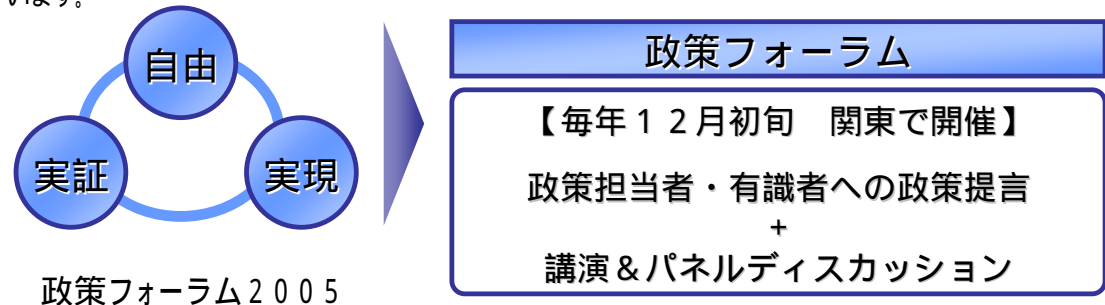
政策フォーラムの目的と概要

ISFJに参加する学生達が、半年間の月日をかけて完成させた研究論文をもとに、政策マーケットの第一線で活躍されている議員・官僚・教授・研究員の方々に対して政策提言を行う年一回の学術イベントです。学生の研究成果を政策提言という形で社会に還元するとともに、学生が中心となって産・官・学の意見交換の場を創出することを主たる目的としており、今年で10回目の開催となります。



構成としては、政策分野ごとに分かれて政策担当者・有識者に提言を行う「政策提言分科会」と、社会の第一線で活躍されているゲストと参加学生の意見交換を目的とした「講演・パネルディスカッション」の2企画が中心となっています。

政策フォーラムは、ISFJ創立以来、年々その規模を拡大しており、現在では学生が主催・運営する学術系イベントとしては、開催規模・アウトプットの質ともに全国で有数のものとなっています。



政策フォーラム2005

ISFJ2005の政策フォーラムは、橋本龍太郎元内閣総理大臣、杉浦正健法務大臣をはじめとして政界・民間・学、各方面から延べ80名以上の政策担当者・有識者を招待し、2日間にわたって政策提言を行いました。また、昨年度より開始した特別企画「共通政策提言」では、少子高齢化問題を取り上げ、ゼミを越えた活発な議論を行いました。結果として、政策フォーラム2005は創立以来最大規模で、無事開催を終えることができました。

政策フォーラム2005 ~ 企画概要 ~

政策フォーラム2005は、12月初旬に慶應義塾大学で2日間にわたって開催され、政策提言分科会3ターム(分科会数25)、パネルディスカッション2本、ゲスト講演2本、基調講演2本で構成されました。

企画概要

日程 12月3・4日 (土・日)
 会場 慶應義塾大学三田キャンパス
 規模 24ゼミ62大学551名
 ゲスト 76名(重複無し)



1日目(12月3日)の流れ

- 9:30 開会式
 オープニング
 代表挨拶
 2日間の流れ
- 9:50 政策パネルディスカッション
 基調講演 (P30)
 パネルディスカッション(1) (P33)
- 12:00 政策提言分科会
 産業・競争政策A・B (P23)
 社会保障政策B (P24)
 労働雇用政策
 少子高齢化対策
 国際貿易促進政策A・B
 国際協力政策
 共通政策提言
- 15:30 ゲスト講演
 ゲスト講演(1) (P31)
- 16:30 1日目終了

2日目(12月4日)の流れ

- 9:00 開会式
 オープニング
 1日の流れ
- 9:40 政策提言分科会
 金融構造改革B (P25)
 財政金融政策
 社会保障政策A (P26)
 地方分権改革A・B
 環境政策A
 都市交通政策A
 国際金融政策
- 12:50 政策提言分科会
 金融構造改革A (P27)
 地域活性化政策A・B (P28)
 環境政策B
 教育政策
 都市交通政策B
 国際協力政策
 国際貿易推進C
 共通政策提言
- 15:40 政策パネルディスカッション
 ゲスト講演(2) (P32)
 パネルディスカッション(2) (P34)
- 17:10 閉会式
 特別基調講演 (P35)
 優秀論文発表・表彰 (P36)
 代表挨拶
- 19:20 2日目終了

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16
- 17
- 18
- 19
- 20
- 21
- 22
- 23
- 24
- 25
- 26
- 27
- 28
- 29
- 30
- 31
- 32
- 33
- 34
- 35
- 36
- 37
- 38
- 39
- 40

政策フォーラム2005 ~分科会 構成~

1日目(12月3日)の分科会構成



<p>産業・競争政策 A</p>	<table border="1"> <tr> <td>関西大学</td> <td>織飼康東ゼミ</td> <td>"情報化が経済に及ぼす影響ソフトウェア統計の整備と産業の改善"</td> </tr> <tr> <td>同志社大学</td> <td>八木匡ゼミ</td> <td>"産業構造活性化へのプロセス-日本独自の強さを目指して-"</td> </tr> <tr> <td>大阪大学</td> <td>本間正明ゼミ</td> <td>"The Silent Oil Crisis トランスログ型費用関数の推計"</td> </tr> <tr> <td>慶應義塾大学</td> <td>田村次朗ゼミ</td> <td>"ハイテク産業の技術標準をめぐる競争政策上の課題"</td> </tr> <tr> <td>中央大学</td> <td>横山彰ゼミ</td> <td>"企業による経済性と社会性の両立-容器包装リサイクル法における拡大生産者責任のあり方を問う-"</td> </tr> </table>	関西大学	織飼康東ゼミ	"情報化が経済に及ぼす影響ソフトウェア統計の整備と産業の改善"	同志社大学	八木匡ゼミ	"産業構造活性化へのプロセス-日本独自の強さを目指して-"	大阪大学	本間正明ゼミ	"The Silent Oil Crisis トランスログ型費用関数の推計"	慶應義塾大学	田村次朗ゼミ	"ハイテク産業の技術標準をめぐる競争政策上の課題"	中央大学	横山彰ゼミ	"企業による経済性と社会性の両立-容器包装リサイクル法における拡大生産者責任のあり方を問う-"
関西大学	織飼康東ゼミ	"情報化が経済に及ぼす影響ソフトウェア統計の整備と産業の改善"														
同志社大学	八木匡ゼミ	"産業構造活性化へのプロセス-日本独自の強さを目指して-"														
大阪大学	本間正明ゼミ	"The Silent Oil Crisis トランスログ型費用関数の推計"														
慶應義塾大学	田村次朗ゼミ	"ハイテク産業の技術標準をめぐる競争政策上の課題"														
中央大学	横山彰ゼミ	"企業による経済性と社会性の両立-容器包装リサイクル法における拡大生産者責任のあり方を問う-"														
<p>産業・競争政策 B</p>	<table border="1"> <tr> <td>慶應義塾大学</td> <td>中澤敬明ゼミ</td> <td>"公共工事における入札制度改革談合事件から見る公共工事発注システムのあり方"</td> </tr> <tr> <td>中央大学</td> <td>砂川和範ゼミ</td> <td>"産業支援政策の日本型モデルを考える"</td> </tr> <tr> <td>慶應義塾大学</td> <td>麻生良文ゼミ</td> <td>"知的財産権の保護と経済学制的財産の問題点と経済学的分析"</td> </tr> <tr> <td>同志社大学</td> <td>八木匡ゼミ</td> <td>"中小企業のブランド戦略"</td> </tr> </table>	慶應義塾大学	中澤敬明ゼミ	"公共工事における入札制度改革談合事件から見る公共工事発注システムのあり方"	中央大学	砂川和範ゼミ	"産業支援政策の日本型モデルを考える"	慶應義塾大学	麻生良文ゼミ	"知的財産権の保護と経済学制的財産の問題点と経済学的分析"	同志社大学	八木匡ゼミ	"中小企業のブランド戦略"			
慶應義塾大学	中澤敬明ゼミ	"公共工事における入札制度改革談合事件から見る公共工事発注システムのあり方"														
中央大学	砂川和範ゼミ	"産業支援政策の日本型モデルを考える"														
慶應義塾大学	麻生良文ゼミ	"知的財産権の保護と経済学制的財産の問題点と経済学的分析"														
同志社大学	八木匡ゼミ	"中小企業のブランド戦略"														
<p>社会保障政策 B</p>	<table border="1"> <tr> <td>慶應義塾大学</td> <td>田村次朗ゼミ</td> <td>"拡大する医療分野における規制緩和競争システムの導入とその展望"</td> </tr> <tr> <td>中央大学</td> <td>横山彰ゼミ</td> <td>"仕事と介護の両立 介護休業制度の改革"</td> </tr> <tr> <td>早稲田大学</td> <td>須賀晃一ゼミ</td> <td>"国民医療費抑制のために薬剤費削減と診療報酬(処方薬料)の引き下げ"</td> </tr> <tr> <td>同志社大学</td> <td>伊多波良雄ゼミ</td> <td>"介護保険制度の世代間格差の解消 持続可能な制度を目指して"</td> </tr> <tr> <td>大阪大学</td> <td>山内直人ゼミ</td> <td>"介護市場における供給者誘発需要仮説の検証"</td> </tr> </table>	慶應義塾大学	田村次朗ゼミ	"拡大する医療分野における規制緩和競争システムの導入とその展望"	中央大学	横山彰ゼミ	"仕事と介護の両立 介護休業制度の改革"	早稲田大学	須賀晃一ゼミ	"国民医療費抑制のために薬剤費削減と診療報酬(処方薬料)の引き下げ"	同志社大学	伊多波良雄ゼミ	"介護保険制度の世代間格差の解消 持続可能な制度を目指して"	大阪大学	山内直人ゼミ	"介護市場における供給者誘発需要仮説の検証"
慶應義塾大学	田村次朗ゼミ	"拡大する医療分野における規制緩和競争システムの導入とその展望"														
中央大学	横山彰ゼミ	"仕事と介護の両立 介護休業制度の改革"														
早稲田大学	須賀晃一ゼミ	"国民医療費抑制のために薬剤費削減と診療報酬(処方薬料)の引き下げ"														
同志社大学	伊多波良雄ゼミ	"介護保険制度の世代間格差の解消 持続可能な制度を目指して"														
大阪大学	山内直人ゼミ	"介護市場における供給者誘発需要仮説の検証"														
<p>労働雇用政策</p>	<table border="1"> <tr> <td>明治大学</td> <td>戸崎肇ゼミ 二部</td> <td>"『若者雇用問題。-フリーター・ニートの削減を目指して-"</td> </tr> <tr> <td>慶應義塾大学</td> <td>樋口美雄ゼミ</td> <td>"少子高齢化時代の労働力・外国人労働者雇用についての競合関係と犯罪に関する実証分析"</td> </tr> <tr> <td>明治大学</td> <td>萩蕪書ゼミ</td> <td>"中国進出日系企業に対する支援人事管理の視点から"</td> </tr> <tr> <td>関西大学</td> <td>前川聡子ゼミ</td> <td>"ニート増加の要因分析若年の就業・非就業の選択に与える影響"</td> </tr> <tr> <td>同志社大学</td> <td>伊多波良雄ゼミ</td> <td>"高齢者雇用のあり方世界に先立つ高齢社会のモデルをめざして"</td> </tr> </table>	明治大学	戸崎肇ゼミ 二部	"『若者雇用問題。-フリーター・ニートの削減を目指して-"	慶應義塾大学	樋口美雄ゼミ	"少子高齢化時代の労働力・外国人労働者雇用についての競合関係と犯罪に関する実証分析"	明治大学	萩蕪書ゼミ	"中国進出日系企業に対する支援人事管理の視点から"	関西大学	前川聡子ゼミ	"ニート増加の要因分析若年の就業・非就業の選択に与える影響"	同志社大学	伊多波良雄ゼミ	"高齢者雇用のあり方世界に先立つ高齢社会のモデルをめざして"
明治大学	戸崎肇ゼミ 二部	"『若者雇用問題。-フリーター・ニートの削減を目指して-"														
慶應義塾大学	樋口美雄ゼミ	"少子高齢化時代の労働力・外国人労働者雇用についての競合関係と犯罪に関する実証分析"														
明治大学	萩蕪書ゼミ	"中国進出日系企業に対する支援人事管理の視点から"														
関西大学	前川聡子ゼミ	"ニート増加の要因分析若年の就業・非就業の選択に与える影響"														
同志社大学	伊多波良雄ゼミ	"高齢者雇用のあり方世界に先立つ高齢社会のモデルをめざして"														
<p>少子高齢化対策</p>	<table border="1"> <tr> <td>慶應義塾大学</td> <td>樋口美雄ゼミ</td> <td>"現代の晩婚化・未婚化大学生の意識調査に基づく実証分析"</td> </tr> <tr> <td>明治大学</td> <td>戸崎肇ゼミ 二部</td> <td>"少子高齢化対策"</td> </tr> <tr> <td>大阪外国語大学</td> <td>野村茂治ゼミ</td> <td>"日本のシングルマザーを救え『シングルサポート保育所』設立"</td> </tr> <tr> <td>明治大学</td> <td>千田亮吉ゼミ</td> <td>"経済的問題を打開する少子化対策義務教育終了後の教育費控除の導入"</td> </tr> <tr> <td>関西大学</td> <td>前川聡子ゼミ</td> <td>"未来を担う子どもたち出生数減少の要因分析"</td> </tr> </table>	慶應義塾大学	樋口美雄ゼミ	"現代の晩婚化・未婚化大学生の意識調査に基づく実証分析"	明治大学	戸崎肇ゼミ 二部	"少子高齢化対策"	大阪外国語大学	野村茂治ゼミ	"日本のシングルマザーを救え『シングルサポート保育所』設立"	明治大学	千田亮吉ゼミ	"経済的問題を打開する少子化対策義務教育終了後の教育費控除の導入"	関西大学	前川聡子ゼミ	"未来を担う子どもたち出生数減少の要因分析"
慶應義塾大学	樋口美雄ゼミ	"現代の晩婚化・未婚化大学生の意識調査に基づく実証分析"														
明治大学	戸崎肇ゼミ 二部	"少子高齢化対策"														
大阪外国語大学	野村茂治ゼミ	"日本のシングルマザーを救え『シングルサポート保育所』設立"														
明治大学	千田亮吉ゼミ	"経済的問題を打開する少子化対策義務教育終了後の教育費控除の導入"														
関西大学	前川聡子ゼミ	"未来を担う子どもたち出生数減少の要因分析"														
<p>国際貿易促進 A</p>	<table border="1"> <tr> <td>中央大学</td> <td>長谷川聡哲ゼミ</td> <td>"日中韓FTA東アジア共同体へ向けて"</td> </tr> <tr> <td>明治大学</td> <td>千田亮吉ゼミ</td> <td>"日中韓FTAによる経済効果の実証分析 4 地域マクロ計量モデルによるシミュレーション分析"</td> </tr> <tr> <td>立命館大学</td> <td>言葉伊知朗ゼミ</td> <td>"東アジア通貨バスケット構想 4 カ国バスケット構想"</td> </tr> <tr> <td>神戸大学</td> <td>石黒馨ゼミ</td> <td>"FTA の経済効果と拡大戦略直接支払い制度と補償スキームの導入を通して"</td> </tr> </table>	中央大学	長谷川聡哲ゼミ	"日中韓FTA東アジア共同体へ向けて"	明治大学	千田亮吉ゼミ	"日中韓FTAによる経済効果の実証分析 4 地域マクロ計量モデルによるシミュレーション分析"	立命館大学	言葉伊知朗ゼミ	"東アジア通貨バスケット構想 4 カ国バスケット構想"	神戸大学	石黒馨ゼミ	"FTA の経済効果と拡大戦略直接支払い制度と補償スキームの導入を通して"			
中央大学	長谷川聡哲ゼミ	"日中韓FTA東アジア共同体へ向けて"														
明治大学	千田亮吉ゼミ	"日中韓FTAによる経済効果の実証分析 4 地域マクロ計量モデルによるシミュレーション分析"														
立命館大学	言葉伊知朗ゼミ	"東アジア通貨バスケット構想 4 カ国バスケット構想"														
神戸大学	石黒馨ゼミ	"FTA の経済効果と拡大戦略直接支払い制度と補償スキームの導入を通して"														
<p>国際貿易促進 B</p>	<table border="1"> <tr> <td>青山学院大学</td> <td>熊谷彰矩ゼミ</td> <td>"東アジアにおける域内貿易の更なる拡大を目指して-自由化・円滑化の動きを地域大のものへ"</td> </tr> <tr> <td>慶應義塾大学</td> <td>島田晴雄ゼミ</td> <td>"日本の対中直接投資と日中貿易-対中直接投資の要因分析及び中国外資政策の揺らぎ-"</td> </tr> <tr> <td>早稲田大学</td> <td>浦田秀次郎ゼミ</td> <td>"日本と東アジア諸国とのFTA モデル東アジアの経済協力地域の構築に向けて"</td> </tr> <tr> <td>慶應義塾大学</td> <td>小島朋之ゼミ</td> <td>"日本経済の持続的成長のために-対日直接投資による経済活性化-"</td> </tr> </table>	青山学院大学	熊谷彰矩ゼミ	"東アジアにおける域内貿易の更なる拡大を目指して-自由化・円滑化の動きを地域大のものへ"	慶應義塾大学	島田晴雄ゼミ	"日本の対中直接投資と日中貿易-対中直接投資の要因分析及び中国外資政策の揺らぎ-"	早稲田大学	浦田秀次郎ゼミ	"日本と東アジア諸国とのFTA モデル東アジアの経済協力地域の構築に向けて"	慶應義塾大学	小島朋之ゼミ	"日本経済の持続的成長のために-対日直接投資による経済活性化-"			
青山学院大学	熊谷彰矩ゼミ	"東アジアにおける域内貿易の更なる拡大を目指して-自由化・円滑化の動きを地域大のものへ"														
慶應義塾大学	島田晴雄ゼミ	"日本の対中直接投資と日中貿易-対中直接投資の要因分析及び中国外資政策の揺らぎ-"														
早稲田大学	浦田秀次郎ゼミ	"日本と東アジア諸国とのFTA モデル東アジアの経済協力地域の構築に向けて"														
慶應義塾大学	小島朋之ゼミ	"日本経済の持続的成長のために-対日直接投資による経済活性化-"														
<p>国際協力政策</p>	<table border="1"> <tr> <td>慶應義塾大学</td> <td>島田晴雄ゼミ</td> <td>アフリカの持続的発展に向けて</td> </tr> <tr> <td>明治大学</td> <td>福田邦夫ゼミ</td> <td>"サブ・サハラアフリカの貧困削減のための政策提言-ウガンダの経済状況から考察する-"</td> </tr> <tr> <td>横浜市立大学</td> <td>藤野次雄ゼミ</td> <td>"日本のODA 政策の見直しと今後の方向性 戦略的ODA と政策としての国民支持"</td> </tr> <tr> <td>早稲田大学</td> <td>浦田秀次郎ゼミ</td> <td>"日本におけるフェアトレードの可能性民間主導型・途上国自立支援"</td> </tr> <tr> <td>一橋大学</td> <td>佐藤哲夫ゼミ</td> <td>"日本の難民受け入れ政策世界をリードする日本の責任"</td> </tr> </table>	慶應義塾大学	島田晴雄ゼミ	アフリカの持続的発展に向けて	明治大学	福田邦夫ゼミ	"サブ・サハラアフリカの貧困削減のための政策提言-ウガンダの経済状況から考察する-"	横浜市立大学	藤野次雄ゼミ	"日本のODA 政策の見直しと今後の方向性 戦略的ODA と政策としての国民支持"	早稲田大学	浦田秀次郎ゼミ	"日本におけるフェアトレードの可能性民間主導型・途上国自立支援"	一橋大学	佐藤哲夫ゼミ	"日本の難民受け入れ政策世界をリードする日本の責任"
慶應義塾大学	島田晴雄ゼミ	アフリカの持続的発展に向けて														
明治大学	福田邦夫ゼミ	"サブ・サハラアフリカの貧困削減のための政策提言-ウガンダの経済状況から考察する-"														
横浜市立大学	藤野次雄ゼミ	"日本のODA 政策の見直しと今後の方向性 戦略的ODA と政策としての国民支持"														
早稲田大学	浦田秀次郎ゼミ	"日本におけるフェアトレードの可能性民間主導型・途上国自立支援"														
一橋大学	佐藤哲夫ゼミ	"日本の難民受け入れ政策世界をリードする日本の責任"														

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16
- 17
- 18
- 19
- 20
- 21
- 22
- 23
- 24
- 25
- 26
- 27
- 28
- 29
- 30
- 31
- 32
- 33
- 34
- 35
- 36
- 37
- 38
- 39
- 40

政策フォーラム2005 ~分科会 ゲスト~

1日目(12月3日)の分科会ゲスト

産業・競争政策A

洪川 修一 様 国際大学GLOCOM
高山 智司 様 民主党 衆議院議員
戸崎 豊 様 経済産業省 経済産業政策局 知的財産政策室 事務官

産業・競争政策B

添田 隆秀 様 経済産業省経済産業政策局産業構造課
高橋 洋一 様 経済財政諮問会議事務局 早稲田大学講師
福嶋 慶三 様 内閣官房 構造改革特区推進室 地域再生推進室 内閣府 構造改革特区担当室 地域再生事業推進室

社会保障政策B

佐藤 大介 様 東京医科歯科大学大学院 医療管理政策学 修士課程
中條 忍 様 大阪府済生会吹田病院 副院長 医学博士
坂野 嘉郎 様 黒川清事務所 業務・政策秘書

労働雇用対策

大畑 英俊 様 テンブスタッフ 若年就職支援センターマネージャー
深宮 智史 様 経済産業省 経済産業政策局産業人材参事官室 企画一係長
山田 修 様 日本キャリア開発協会会員 CDA(キャリア・デベロップメント・アドバイザー)

少子高齢化

高木 美香 様 経済産業省 製造産業局車両課 車両競技一係長
橋 秀徳 様 原口一博代議士政策担当秘書 (財)松下政経塾第23期
山内 直人 様 大阪大学大学院国際公共政策研究科教授

国際貿易促進A

岡野 陽二 様 日本貿易振興機構 海外調査部 中国北アジア課
塩澤 修平 様 慶應義塾大学経済学部教授
吉崎 達彦 様 双日総合研究所副所長

国際貿易促進B

小川 敏夫 様 民主党 参議院議員
竹森 俊平 様 慶應義塾大学経済学部教授
田中 紀子 様 外務省 国際情報統括官組織 第三国際情報官室

国際協力

木村 秀美 様 独立行政法人 経済産業研究所 研究員
田幸 大輔 様 (社)経済同友会・政策調査部マネージャー
増田 雅之 様 防衛庁防衛研究所



- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16
- 17
- 18
- 19
- 20
- 21
- 22
- 23
- 24
- 25
- 26
- 27
- 28
- 29
- 30
- 31
- 32
- 33
- 34
- 35
- 36
- 37
- 38
- 39
- 40

政策フォーラム2005 ~分科会 構成~

2日目(12月4日) 前半の部 の分科会構成



金融構造改革 B

東北大学	鴨池治ゼミ	"PFI推進へ - PFI事業によるさらなる仙台活性化 -"
横浜市立大学	藤野次雄ゼミ	"リレーションシップバンキングのあり方 - 中小企業貸出市場の地域別実証分析 -"
早稲田大学	久保田隆ゼミ	"沖縄金融特区の未来 - 市場の拡大を目指して -"
滋賀大学	有馬敏則ゼミ	"金融コングロマリットのあり方 - 日本の金融コングロマリットを探る -"

財政金融政策

一橋大学	清水啓典ゼミ	"デフレ後の金融政策パル崩壊に学ぶ"
慶應義塾大学	吉野直行ゼミ	"効率化の観点から見た日本の財政政策財政安定化と経済成長"
慶應義塾大学	跡田直澄ゼミ	"わが国の財政政策の評価中立命題の検証"

社会保障政策 A

横浜市立大学	鞠重鎮ゼミ	"水道事業改革財政負担軽減としての水道事業改革"
明治大学	千田亮吉ゼミ	"環境税導入の評価 - 持続的なCO2排出削減を目指して -"
神戸大学	山口三十四ゼミ	"少子高齢化時代における年金問題 - 国民年金納付率の向上を目指して -"

地方分権改革 A

慶應義塾大学	大村達也ゼミ	"地方分権を促進するための地方財政構造改革三位一体改革を中心に論ず"
大阪大学	本間正明ゼミ	"地方歳入の見直しによる財政再建 - 公務員給与との地域準拠 -"
青山学院大学	熊谷彰穂ゼミ	"地方財政の健全化を目指して - 地方自治体の効率的な自己運営 -"

地方分権改革 B

中央大学	横山彰ゼミ	"三位一体改革への提言地方債の元利償還費に対する交付税措置の廃止に向けて"
京都大学	吉田和男ゼミ	"望ましい地方分権へのロードマップ - 地方政府のインセンティブを考慮した制度設計 -"
九州大学	細江守紀ゼミ	"道州制の導入について - 三位一体改革と道州制 -"

環境政策 A

慶應義塾大学	樋口美雄ゼミ	"環境対応車普及への税制 - 新たな自動車税制へ -"
九州大学	細江守紀ゼミ	"福岡市のごみ処理費用有料化による抑制効果の実証分析排出者としての意識ある社会形成に向けて"
千葉大学	倉阪秀史ゼミ	"企業の環境広告研究企業に向けたISO14021に関するアンケートより"
大阪大学	本間正明ゼミ	"豊かさや環境の共存に向けて - ごみ処理有料化政策の排出抑制効果分析"

都市交通政策 A

慶應義塾大学	跡田直澄ゼミ	"大都市交通政策東京都23区における混雑料金の導入"
明治大学	戸崎肇ゼミ 3年	"離島航空路線の再考 - 財源の確保と最適なシステムの構築 -"
明治大学	戸崎肇ゼミ 4年	"国内航空輸送における規制緩和政策の再考察格付け 制度による安全文化の構築"
日本大学	岸井隆幸ゼミ	"中量交通の導入に関する研究 - 仮想都市をケーススタディとして -"

国際金融政策

慶應義塾大学	吉野直行ゼミ	"為替レートの安定化を目指して - 外国為替介入と為替レートの実証分析を通して"
慶應義塾大学	若杉隆平ゼミ	"Asian Currency Basket - Common Currency in Asia -"
早稲田大学	秋葉弘哉ゼミ	"人民元改革の行方 - 資本移動自由化と変動相場制に向けて"
京都大学	岩本武和ゼミ	国際収支秩序とそれにおける日本の役割

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16
- 17
- 18
- 19
- 20
- 21
- 22
- 23
- 24
- 25
- 26
- 27
- 28
- 29
- 30
- 31
- 32
- 33
- 34
- 35
- 36
- 37
- 38
- 39
- 40

政策フォーラム2005 ~分科会 ゲスト~

2日目(12月4日) 前半の部 の分科会ゲスト

金融構造改革B

鶴飼 康東 様 関西大学総合情報学部教授・政策分析ネットワーク副代表
才田 友美 様 日本銀行調査統計局経済分析担当
津田 栄 様 トラッカーキャピタル(株)取締役 NPO法人 危機管理学総研理事 経済・金融アナリスト、行政・経営コンサルタント
藤岡 隆雄 様 金融庁検査局総務課 政策係長

財政金融政策

梅溪 健児 様 内閣府 政策統括官(経済財政運営担当)付 参事官(総括担当)
白石 浩介 様 三菱総研 政策・経済研究センター シニアエコノミスト
千田 亮吉 様 明治大学商学部教授

社会保障政策A

麻生 良文 様 慶應義塾大学法学部教授
田畑 壽邦 様 株式会社UFJ総合研究所・総合相談部部長代理
前川 聡子 様 関西大学経済学部助教授

地方分権改革A

浅野 大介 様 経済産業省 経済産業政策局(地域経済産業グループ) 地域経済産業政策課課長補佐
鈴木 紘平 様 東京大学工学系研究科特任研究員
田中 健 様 大田区区議会議員

地方分権改革B

安藤 晴彦 様 経済産業省燃料電池推進室長(電気通信大学客員教授)
前川 桂恵三 様 (財)松下政経塾 第24期生

環境政策A

竹谷 理志 様 環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課
中山 元太郎 様 環境省 総合環境政策局環境計画課課長補佐
吉田 直樹 様 三菱総合研究所

都市交通A

金子 剛 様 楽天株式会社
西山 敏樹 様 慶應義塾大学特別研究員

国際金融

植野 大作 様 野村證券株式会社 為替・国際資本移動調査担当のエコノミスト
出口 ゆう子 様 野村證券株式会社 広報部CSR課
藤野 次雄 様 横浜市立大学国際総合科学府学部長



- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16
- 17
- 18
- 19
- 20
- 21
- 22
- 23
- 24
- 25
- 26
- 27
- 28
- 29
- 30
- 31
- 32
- 33
- 34
- 35
- 36
- 37
- 38
- 39
- 40

政策フォーラム2005 ~分科会 構成~

2日目(12月4日) 後半の部 の分科会構成



金融構造改革 A

青山学院大学	熊谷彰矩ゼミ	"証券化の発展による金融システムの転換経済全体でのリスクシェアリングを目指して"
早稲田大学	須賀晃一ゼミ	"知的財産権担保融資制度中小企業の知的財産経営を生かすために"
早稲田大学	藪下史郎ゼミ	"中小企業の安定した資金調達を目指して行政主導CDOの可能性と課題"

地域活性化政策 A

千葉大学	倉阪秀史ゼミ	千葉県内の市町村から考える地方行政の市民参加に関する分析と政策提案
宇都宮大学	中村裕司ゼミ	"中心商店街再建宇都宮市「にぎわい特区」の現場から"
関西大学	前川聡子ゼミ	"住みよい街づくりをめざしてヘドニック・アプローチによる近畿2府4県の全市住民の選考分析"

地域活性化政策 B

大阪市立大学	長尾謙吉ゼミ	"大阪の産業活性化への考-ものづくりの街大阪再興~"
北九州市立大学	古賀哲矢ゼミ	"中心市街地活性化政策コンパクトシティーの観点から"
名古屋大学	多和田真ゼミ	東海産業クラスター分析-地域経済発展のための方策~"

環境政策 B

九州大学	大住圭介ゼミ	"環境政策・京都議定書発効に伴う温室効果ガス削減目標達成のために望ましい環境政策のあり方~"
神戸大学	石原享一ゼミ	"容器税とデポジット制がつくる循環型社会システム"
同志社大学	八木匡ゼミ	"3Rの効率的な達成に向けて事業者への追加課税とデポジット制の併用"

教育政策

慶應義塾大学	櫻川昌哉ゼミ	"CSR 企業へのインセンティブ社会的責任投資(SRI)のすゝめ"
慶應義塾大学	塩澤修平ゼミ	"教員の国家公務員化「世界一受けたい授業を目指して」"
同志社大学	山田礼子ゼミ	"一年次教育にみる高等教育改革-よりよい大学教育を目指して~"

都市交通政策 B

早稲田大学	須賀晃一ゼミ	"渋滞緩和のためよりよい交通体系を考えるP&R導入に向けて"
大阪外国語大学	森栗茂一ゼミ	"サステナブルコミュニティと交通まちづくり 住吉台くるくるバスを守る会の活動から~"
明治大学	生田保夫ゼミ	"オフピーク通学推進に向けての政策提言快適通勤推進協議会の新たな役割"

国際交流政策

大阪大学	山内直人ゼミ	"留学生受入れ政策の未来に向けて-留学需要決定メカニズムの解明~"
中央大学	藪田雅弘ゼミ	"アジアにおけるエコツーリズムの展開-モンゴル国の観光立国への潜在可能性"

国際貿易促進 C

早稲田大学	浦田秀次郎ゼミ	"東アジアエネルギーセキュリティ-持続的発展のための域内協力"
大阪市立大学	林一ゼミ	"FTAによるフィリピン看護師受け入れについてアジア圏医療循環システムにむけて"
慶應義塾大学	木村福成ゼミ	"東アジア貿易構造の分析-機械産業におけるフラグメンテーションの進展~"

政策フォーラム2005 ～分科会 ゲスト～

2日目(12月4日) 後半の部 の分科会ゲスト

金融構造改革A

安藤 晴彦 様 経済産業省燃料電池推進室長(電気通信大学客員教授)
信森 毅博 様 日本銀行 企画役
藤岡 隆雄 様 金融庁検査局総務課 政策係長

地域活性化A

前川 桂恵三 様 (財)松下政経塾 第24期生
山田 なおこ 様 杉並区区議会議員

地域活性化B

浅野 大介 様 経済産業省 経済産業政策局(地域経済産業グループ)地域経済産業政策課課長補佐
鈴木 紘平 様 東京大学工学系研究科特任研究員
田中 健 様 大田区区議会議員

環境政策B

平塚 二郎 様 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 企画課リサイクル推進室(廃棄物・リサイクル制度企画室併任)
横山 彰 様 中央大学総合政策学部教授 博士(経済学) 日本経済政策学会前会長

教育

松原 仁 様 民主党 衆議院議員
山田 修 様 日本キャリア開発協会会員 CDA(キャリア・デベロップメント・アドバイザー)

都市交通B

浅見 雅之 様 東日本旅客鉄道株式会社 JR東日本研究開発センター 先端鉄道システム開発センター 輸送システムグループ
金子 剛 様 楽天株式会社
西山 敏樹 様 慶應義塾大学特別研究員
本間 由紀子 様 日本アイ・ピー・エム株式会社 ソフトウェア事業 WebSphereテクニカル・セールス ITスペシャリスト

国際交流

川口 善行 様 評価学会会員 東北公益文科大学教授 シャプラニールー市民による海外協力の会元事務局長
高山 智司 様 民主党 衆議院議員
樋口 利恵 様 国際観光振興機構 事業開発部 事業企画・会員サービスグループ アシスタント・マネージャー

国際貿易促進C

小田 正規 様 U F J 総合研究所 経済・社会政策部主任研究員 政策分析ネットワーク・事務局長代理
小林 献一 様 経済産業省 通商政策局・通商機構部参事官補佐(U F J 総合研究所から出向中) 政策分析ネットワーク・事務局長補佐
二村 泰弘 様 日本貿易振興機構 アジア経済研究所 貧困削減・社会開発研究グループ長



政策提言分科会(~)統括責任者

永井万理 (慶應義塾大学経済学部島田ゼミ)
北尾友佑 (関西大学経済学部前川ゼミ)



- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16
- 17
- 18
- 19
- 20
- 21
- 22
- 23
- 24
- 25
- 26
- 27
- 28
- 29
- 30
- 31
- 32
- 33
- 34
- 35
- 36
- 37
- 38
- 39
- 40

政策フォーラム2005 ~ 共通政策提言 ~

共通政策提言の概要 ~ ゼミの枠を越え、共同で政策提言を行う ~

共通政策提言は、政策フォーラムの1日目午後と2日目を用いて、自由政策提言の議論を基礎に、コラボレーション作業を通して参加者間での議論を深め、ゼミの枠を超えて共通の政策を打ち出すことを目標に企画されました。

企画構成

- 1日目: ディスカッション
- 2日目: 中間報告
ディスカッション
議論集約・プレゼンテーション練習
ゲストへの政策提言

企画コンセプト

同じ研究テーマの研究会を一度に集めることで、問題意識などの新しい視点を、学生ならではの政策提言を行うことだけでなく、事前に問題意識を整理、共有することで、ゼミごとに刺激しあい、アウトプットの質を高める。

参加ゼミ・大学・学生数

5ゼミ・5大学・約30名

参加ゲスト一覧 (計5名)

分科会発表(1日目)

- 白石 小百合 様(日本経済研究センター研究員副主査)
- 戸田 淳仁 様(慶應義塾大学経済学部・研究助手)
- 鷲尾 英一郎 様(民主党 衆議院議員)

政策提言(2日目)

- 泉 ケンタ 様(民主党青年会青年局長 衆議院議員)
- 前川 聡子 様(関西大学経済学部助教授)

企画責任者より



企画構成

初日(ディスカッション)

構成は 副代表挨拶 企画要旨説明 共通政策提言代表決め ディスカッション開始(問題意識、現状認識、政策提言など) 議論は深まり、18時の解散後も8時まで政策案を議論していた。

2日目(午前の部)

構成 中間報告 政策提言 パワポ取りまとめ。1日目の議論の提言の予定を開会式で提案。開会式参加者が少なかったのが残念。昨年度同様パワポの取りまとめは大変そう、議論の大きな負担になった。

提言発表(午後の部)

構成 提言発表 ゲストとのディスカッション。2日間のディスカッションをもとに政策提言。ゲストが少しきびしめのコメントをしたので、全体的に引き締まった雰囲気だった。

企画運営を終えて

共通政策提言は来年も続けるべき。参加者の中でも特に熱い学生が集まっています。ただゲストは2日間同じ人がいいと感じました。2日目だけだと、1日目に終わっていた議論をもう一度繰り返すことにもなりかねません。あと今回のように問題意識から政策提言をまとめるのではなく、キャッチコピーを考えるとかでもいいと思います。問題意識や現状を詳しく議論してもらって、最後に1つキャッチをまとめる。ゲストとも議論が深まるのではないしょうか。来年もこの企画が続くことを期待しています。

企画責任者

北尾友佑 (関西大学経済学部前川ゼミ)



政策フォーラム2005 ～基調講演～

開催日時 12月3日(土) 9:50～11:40
講演者 船橋 力 様 (株式会社ウィル・シード 代表取締役)
テーマ 「若者が希望とやりがいのある人生を送るにはどうあるべきか」

目的

現代の若者が、将来に希望を抱きやりがいのある人生を送れるように働きかけるとともに、そのために社会がどうあるべきかその解決策を考える

形式

大きな希望を抱き、実際に職業で成功をおさめ、今なお大きな目標に向かって奮闘している方によるこれまでの人生・成功に至るまでの経緯・今後の目標についての講演

ご講演内容の要旨 (運営委員の記録より)

- ・船橋様の経歴、またそれに伴った経験談
- ・ビデオを使ってウィル・シードの会社説明
- ・なぜそのようなウィルシードという会社を設立するかに至った経緯
- ・起業してからの経験談
- ・それを通して学んだこと・人生において大切なこと
- ・質疑応答

「起業とは己を走らせることであり 企業とは人をとめることである。」

海外での生活やボランティアなどさまざまな経験を通して、起業しようと考えた。しかし起業するまでには、様々な企業に自分の考えを持っていっても断られ、挫折を経験することもあった。それでも「日本の教育を変えたい」という思いのもとで行動し続け、ついには実現に至った。やってみなければ分からないし、やり続ける以上は失敗しない。まず、行動を起こし自分でやってみることである。

企画責任者

佐藤洋平 (慶應義塾大学経済学部島田ゼミ)
生島慎太郎 (慶應義塾大学経済学部島田ゼミ)



政策フォーラム2005 ～ゲスト講演～

開催日時 12月3日(土) 15:30～16:30
講演者 田原 総一郎 様 (評論家・ジャーナリスト)
テーマ 「自らの考えを発信していくということ」

企画目的

いかに自らの考えを「発信」するか。

それは、官僚に政策を提言するとき、顧客に新商品を提案するとき、初対面の人に自己紹介をするとき、およそコミュニケーションが必要であるときならいかなる時でも、欠かすことのできない重要な要素である。

主に「政治とメディア」を通じて自身の考え、あるいは自身そのものを発信され続け、問題解決に向かって数多くの実績を残されているゲストの方に、「発信」することの意味、「発信」の内容、「発信」の方法、「発信」の影響などといったテーマについて、学生が考えを深め自身の有効な発信の方法を確立していくことを目指す。

ご講演内容の要旨 (運営委員の記録より)

自らを発信するという事は現在の社会の中で難しいこととなっている。昨今の耐震強度偽造事件一つをとってみても、様々な利害関係のために、自分を偽らず仕事をして生きていくことの難しさが示されている。こうした中で自身は、現在のジャーナリストとして仕事をしていく上で、「嘘をつかない」ということをポリシーにしている。もしも一つの嘘をついしまえば、メディアを通してどこかで必ずつじつまが合わなくなってしまうことを知っているからである。

学生へのメッセージ: 働く中で自己実現を出来る場を探すこと。それこそが大切である。



企画責任者

垂水友紀 (慶應義塾大学経済学部塩沢ゼミ)



- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16
- 17
- 18
- 19
- 20
- 21
- 22
- 23
- 24
- 25
- 26
- 27
- 28
- 29
- 30
- 31
- 32
- 33
- 34
- 35
- 36
- 37
- 38
- 39
- 40

政策フォーラム2005 ～ゲスト講演～

開催日時 12月4日(日) 15:40～16:30
講演者 杉浦 正健 様 (法務大臣 衆議院議員 自由民主党)
テーマ 「～道州制の導入と地方分権の推進について～」

目的

半年以上の時間を費やして現状分析から政策提言までを経験した学生達に対して、実際に政策マーケットの第一線で政策立案や政策運用を行っている方から政策の「現場」についてのお話を伺い、質疑や意見交換をおこなう機会を提供する。議員の方と意見を交換することで、参加学生達が、自分達に足りなかった点やこれから伸ばしていくべき点についての反省材料を得る機会をつくる。さらに、自分達の政策立案が社会に通用し得る事を認識し、今後の日本を支える世代として、日本の活路を見出す動機を得る場となることを目指す。

概要

道州制をライフワークになさっている杉浦大臣と、道州制を行えばどのように日本が変わるのかという点について資料をもとに検討していく。

ご講演内容の要旨 (運営委員の記録より)

現在、経済は大競争時代となり様々な場面で変化の時代となっている。そうした中で、アインシュタインが像力は知識よりも大切といったように、想像力が世界を包むのではないかと思われる。なぜなら、知識には限界があるからである。

そして政治の世界もまた、想像力を大事にするものであって欲しいと考えている。

道州制は、少子化の影響でこのままでは市町村は成り立たない、との考えから導入されようとしている制度である。「市町村で出来ることは市町村で、民間で出来ることは民間で」が小泉改革の方針。その方針をもとに全国を9～10の州に分け、国の権限を委譲し、住民が監視監督参加する仕組みを作ることで官庁の無駄な仕事をなくことが出来るはずである。

道州制の根本には、財政難がある。道州制によって10兆円削減できるのである。さらに行政改革が必要である。公務員を5%減らす。そうすることによって増税しなくても済む。

普遍的なものを目指して世界は動いている。最も普遍的なことは、生まれる、死ぬ、生きるということ。世界中どの地域に住む誰もが輝きながら生きられるような政界になっていくことを望む。

企画責任者

垂水友紀 (慶應義塾大学経済学部塩沢ゼミ)
牧井俊介 (早稲田大学政治経済学部藪下ゼミ)



政策フォーラム2005 ～パネルディスカッション～

開催日時 12月3日(土) 10:50～11:40
司会 島田 晴雄 様 (慶應義塾大学経済学部教授・内閣府特命顧問)
パネリスト 南部 靖之 様 (株式会社パソナ 代表取締役グループ代表 兼 社長)
 玄田 有史 様 (東京大学社会科学研究所助教授)
 下村 博文 様 (衆議院議員 前文部科学大臣政務官)
テーマ 「若者が希望とやりがいのある人生を送るにはどうあるべきか」

目的

現代の若者が、将来に希望を抱きやりがいのある人生を送れるように働きかけるとともに、そのために社会がどうあるべきかその解決策を考える

形式

テーマである若者が希望とやりがいのある人生を送れるためには『社会』がどうあるべきかについて社会の仕組みや現状の問題点である雇用、学校・家庭教育、などをいかに改善させることで望ましい社会へと近づくのかを考える



南部様より

自分も若い頃はフリーターであったが、父から言われた「働くことは自分を一番表現することであり、今までの学校教育は自分の表現力をつけるためにあった。一度の人生、自分の力を出し切れ！自分の人生、自分で作れ！」という言葉が働くきっかけとなった。

学校教育など、さまざまな経験から知識をつけることは、行動することのはじまりである。行動することによって、知識は完成する。行わなければ知識を持っていないことと同じである。行動を起こすことが大事。そのためには、志を持つべきである。

(運営委員記録より)

玄田様より

子供の頃は希望を持っていても、生きていく中でだんだんと希望・やりがいを失っていく人が多い。希望を持たなければ、挫折や失望を経験することも無いと思ってしまうのだ。

希望・やりがいを持つためには、まず自分から行動してみることが必要である。その中で、とりわけ大切にしたいのが「弱い絆」である。たまにしか会わないけど信頼できる人を見つけることは、違う価値観、違う情報を持っている人との繋がりを得るといっており、自らに新たな刺激を与える。自分が挫折を経験した時は、そうした絆こそ大切になる。

(運営委員記録より)

下村様より

文部科学大臣政務官を勤め、学校の現状を見てきた。現在の学校には、50%の子どもが片親・一人っ子、親はなかなか帰ってこない、65%の女子学生が志望をもてない、多くの子供が自己否定的である、といった現実がある。自分に自信を持てる社会を作りたい。そのためにも、教育改革は必要だ。現在、パウチャー制度の導入や個人への教育費補助といった案がある。様々な苦勞を重ねて大学を卒業した自らの経験を通して「何のために生まれてきたのか？」をつきつめて考え、現職についた。教育の充実こそが、一人ひとりの豊かさを養い、社会を豊かにする。

(運営委員記録より)

企画責任者

佐藤洋平 (慶應義塾大学経済学部島田ゼミ)
前島慎太郎 (慶應義塾大学経済学部若杉ゼミ)



政策フォーラム2005 ~ パネルディスカッション ~

開催日時 12月4日(日) 16:30 ~ 17:10

司会 横山 彰 様 (中央大学大学院総合政策研究科担当教授)

パネリスト 枝野 幸男 様 (衆議院議員 民主党)

河村 たかし 様 (衆議院議員 民主党)

松原 仁 様 (衆議院議員 民主党)

テーマ 「政策 ~ 今後の日本に求められているもの ~」

目的

ゲスト講演 と同じ。

概要

2005年、郵政民営化の論争、また衆議院議員選挙などさまざまな局面で政治が変動した。そのような中現在の小泉内閣は更に改革を推し進める方針を掲げているが、郵政民営化の法案が可決した今(12月時点)、次にどのような改革の手を打ち、日本はどのような道を進むべきなのか。今後日本の歩むべき道について必要な、パネリストそれぞれの政策の立案のやり方や信念、また政策の発信の仕方などについて議論する。



枝野様より

予見の可能性を政策判断の軸に

小泉内閣が現在方針と掲げている「民でできることは民で」という政策は、「何が民でできるのか?」という点で肝心の判断基準を持たないと、政策論としては意味を成さない。必ず矛盾が出てきてしまう。政策を考える際に必要なのは、判断軸である。具体的には、予見可能性の有無が大切である。少子高齢化の時代を迎え、財政的にも経済的にもこのままでは右肩上がりになることない中で、予見可能性がなければ、社会に対する不安やひずみは拡大する。

国民にとって予見可能性を高めるには、まず第一に、簡単に判断できるシンプルで明確なルール作りが大切である。ただし、行政にはそのつど裁量で判断しなければならぬところがあるのも確かで、その線引きを明確にすることが第二点だ。そして第三に、事後チェックをしっかりと、ルールに反した場合には事後的に処罰をずらすということである。

また一方で、予見可能性が高まるような政策を作るために、想像力も大切だ。自分の視点だけではなく、他の人の立場に立つて考える想像力が必要なのである。

そうした上で、少子化を前提とした社会システムを作るのが重要だ。従来の高度経済成長を前提とした経済構造を変革し、マイナス経済構造の中で成り立つようなシステムを作らなくてはならない。(運営委員記録より)

河村様より

システム変更で議員の民営化を

行政改革は、どれだけやっても失敗するだろう。なぜなら、議員が「職業」になっているからである。権力は固定化すると思える。もともとなぜ議員ができたかという、王政における権力の固定化を助けたためであった。ところが議員は、辞職によって食うに困らなくなった。当然ながら、役人と仲良くするようになった。議員を変えるにはどうしたらいいか、日本はいよいよ、最大の題目にぶち当たっていると言える。

例えば議員年金。そもそも、権力を行使するものは賃金でないとはいけないというのは世界の普遍的な真理だ。もしも民主主義の当たり前の形をとるなら、必ず議員も国民と同じ年金で生活するようになるに違いない。

あるいは、日本では、党で一括で行動するようにしており、法案の提出にも党団士の取引が見られる。しかし、こうしたやり取りも、世界で日本だけだ。

では、議員に本気で仕事をさせるにはどうしたらいいか。自らは、議員を民営化するしかないと思っている。史上最大のパラドックスにも聞こえるが、同じ給料が支払われ、政党助成金もできた今、この分野に関して、日本は「超社会主義」になっている。システム自体を基本的に変革し、個人の献金で食べられる仕組みにすべきだ。議員民営化は新しい時代のキーワードである。(運営委員記録より)

松原様より

失われた国家観の回復と発信を

今の日本において、議員にも、一人一人の国民にも求められるのは、一つの国家観である。国家に対する情熱というものがある。今の日本には大きく失われているのだ。

日本国憲法の前文に見られるように、我々は国家性善説とも言うべきものの上に立っていた。しかし、それが現実ではないということが拉致問題で明らかになり、これ以降、世論調査では憲法を改正すべきという意見が多くを占めるようになった。今こそ、我々は希望だった国家意識というものを取り戻していかなくてはならない。

私は、国家は一つの人格的な存在だと思っている。日本は、これまで自ら意思決定できない存在であった。今度の拉致問題をきっかけとした改正外為法の成立の中で、初めて自国の意思で他国に経済制裁を行う決定を下し、その壁が崩れてきた。しかしながら、今の日本や、与野党の議員を見ても、そういう国家観、国益に対する意識というものはまだまだ希薄である。自らの意思をはっきりと外に向かって発信する、国益を重要視して行動するということが今の日本に最も必要とされている。(運営委員記録より)

企画責任者

垂水友紀 (慶應義塾大学経済学部塩沢ゼミ)

金子裕輔 (慶應義塾大学経済学部島田ゼミ)



- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16
- 17
- 18
- 19
- 20
- 21
- 22
- 23
- 24
- 25
- 26
- 27
- 28
- 29
- 30
- 31
- 32
- 33
- 34
- 35
- 36
- 37
- 38
- 39
- 40

政策フォーラム2005 ～特別基調講演～

開催日時 12月4日(日) 17:50～18:45
講演者 橋本 龍太郎 様 (元内閣総理大臣)
テーマ 「今後の日本を担う若者達へ」



目的

日本政策学生会議 政策フォーラム開催10周年特別企画

概要紹介

政策フォーラム2005閉会式では、開催10周年を記念し、戦後、米軍が残っていた処々の制度を歴史的に改革し現在の小泉改革の礎を築いた元内閣総理大臣である橋本龍太郎先生に特別講師としてお越しいただきました。

御講演では、先生の首相在任中のご経験を織り交ぜつつ、歴史的観点から日本史の中における当時の改革及びその改革のもととなった先生のお考え、そして、日本が今までに取り組まれてきた改革とこれからの課題といったテーマについてのお話をいただくとともに、日本の将来を担う学生への激励メッセージをいただきました。

ご講演の構成 (運営委員の記録より)

最優秀政策提言のプレゼンテーションに対するコメント

資源としての「水」に関するレクチャー (特定非営利法人 日本水フォーラム 会長として)

内閣総理大臣在任時に取り組まれた「6大改革」の概要および背景

学生へのメッセージ

企画責任者

金子裕輔 (慶應義塾大学経済学部島田ゼミ)

垂水友紀 (慶應義塾大学経済学部塩沢ゼミ)



- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16
- 17
- 18
- 19
- 20
- 21
- 22
- 23
- 24
- 25
- 26
- 27
- 28
- 29
- 30
- 31
- 32
- 33
- 34
- 35
- 36
- 37
- 38
- 39
- 40

政策フォーラム2005 ～表彰と特典企画～

優秀賞の表彰ならびに入賞ゼミへの特典

ISFJでは、学生が論文執筆を通して切磋琢磨し、提言論文の質の向上を目指して努力する上での励みになれば、との思いから、論文の完成度を評価する「優秀論文賞」や政策提言の完成度を評価する「プレゼンテーション賞」をはじめとした各賞を設けています。これらの賞によって、参加ゼミは自らの提言の「完成度」を相対的に捉えることができます。（表彰は政策そのものの優劣を評価するものではありません。）
なお論文の採点にあたっては、論文査読で御協力いただいている論文審査委員会に依頼致しました。



優秀論文賞

大学	研究会名	論文名	分科名
慶應義塾大学	若狭研究会	Asian Currency Basket	国際論連集
中央大学	横溝研究会	企業と経済性社会の両立	産学論連集

(信託論文)

プレゼンテーション賞

大学	研究会名	論文名	分科名
慶應義塾大学	若狭研究会	Asian Currency Basket	国際論連集
中央大学	横溝研究会	三位一体の道	地方論連集

(信託論文)

優秀賞

大学	研究会名	論文名	分科名
開成大学	前川研究会	出生率の要因分析	少子化論集
慶應義塾大学	跡見研究会	東京都区における福祉給付の導入	都市論連集
中央大学	横溝研究会	三位一体の道	地方論連集

(信託論文)

優秀賞

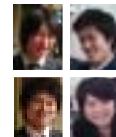
大学	研究会名	論文名	分科名
慶應義塾大学	中野研究会	公共事業に対する規制緩和	産学論連集
千葉大学	倉家研究会	行政の市民参加に関する分析と提議	地域論連集
開成大学	前川研究会	二子増収要因分析	少子化論集
名古屋大学	糸田研究会	東海経済圏の分析	地域論連集
大分大学	本間研究会	豊かさと環境共生に向けた提議	環境論集
慶應義塾大学	植其研究会	少子化時代の労働力確保の提議	少子化論集
慶應義塾大学	植其研究会	環境政策の提議	環境論集
九州大学	細下研究会	福岡市の環境行政の提議	環境論集
中央大学	横溝研究会	介護福祉政策	社会論連集
横浜国立大学	藤沢研究会	リレーションシップのあり方	産学論連集

(信託論文)

論文の詳細につきましては、ISFJのHP (<http://www.ISFJ.net/>) より閲覧可能です。

論文審査委員会対応責任者

- 小池将人 (中央大学総合政策学部島田ゼミ)
- 中條遥 (明治大学商学部戸崎ゼミ)
- 金子裕輔 (慶應義塾大学経済学部島田ゼミ)



開閉会式統括責任者

- 村上裕子 (横浜市立大学商学部藤野ゼミ)

特典企画責任者

- 金子裕輔 (慶應義塾大学経済学部島田ゼミ)

フォーラム閉会式で発表

政策フォーラム2005では、2日目の閉会式において左記の論文を優秀論文として表彰するとともに、賞状を授与しました。
また、フォーラムの発表内容も含めた評価である「総合評価」において優れた政策提言を評価され、「プレゼンテーション賞」を受賞した慶應義塾大学若杉ゼミと中央大学横山ゼミは、閉会式において全体プレゼンテーションを行いました。

受賞ゼミへの特典

～橋本龍太郎先生への提言機会の提供～

政策フォーラム2005で「プレゼンテーション賞」を受賞した2ゼミには、フォーラム後の12月8日(木)、特別基調講演の講師としてお越しいただいた橋本龍太郎先生の事務所を改めてご訪問し、改めてプレゼンテーションを行う機会が提供されました。先生からは、それぞれの研究内容について高くご評価を頂くと共に、提言で扱った内容について、実務経験を基にしたアドバイスをいただくことができました。

創立10周年記念シンポジウムの概要

創立10周年記念シンポジウムの概要 ～ 学生が創る、新しい日本～

創立10周年記念シンポジウムは、ISFJのこれまでの軌跡を振り返りながら、今後の活動の方向性を考えるとともに、日本の将来像について学生が主体的に考え、提言していく場を創出することを目的に開催されました。

企画構成

- 第1部: パネルディスカッション
- 第2部: 学生による「新しい日本像」の提言
パネルディスカッション

開催日時

2006年1月9日(祝) 15:30～18:40

開催場所

明治大学御茶ノ水キャンパス

企画目的

ISFJ日本政策学生会議
創立10周年記念式典

来場者数

約200名

参加ゲスト一覧 (計6名)

第一部

- 横山 彰 様 (中央大学教授、司会進行)
- 鷓飼 康東 様 (関西大学教授)
- 跡田 直澄 様 (慶應義塾大学教授)

第二部

- 中川 秀直 様 (自由民主党政調会長)
- 松本 剛明 様 (民主党政調会長)
- 跡田 直澄 様 (慶應義塾大学教授、司会進行)

企画タイムライン

- 15:30 開会式
竹中平蔵総務大臣によるビデオレター上映
- 15:45 ISFJ 10周年記念パネルディスカッション
～これまでの政策研究、これからの政策研究～
- 16:45 休憩
- 17:00 ISFJ 10周年記念パネルディスカッション
～学生が創る、新しい日本～
- 18:30 閉会式
- 18:40 閉幕

企画概要

ISFJの10年間の活動の総括として、ISFJのこれまでの軌跡を振り返り、今後の活動の方向性を考えると共に、日本の今後のあり方について学生が主体的に提言していくための場として企画されました。

第1部では、ISFJ発足以来、ISFJ運営ゼミの教授として毎年、提言論文の査読や政策フォーラム政策合宿等の開催にお力添えを頂いている横山教授・鷓飼教授・跡田教授にお越しいただき、ISFJの取り組みを振り返りつつ、今後の政策研究のあり方についてディスカッションしていただきました。

第2部では、「学生が創る、新しい日本」と題して、学生の手で5つの重点分野の政策をまとめ、2030年の未来を意識した「学生による日本像」を策定、2大政党である自由民主党・民主党両党の政調会長に提言いたしました。また、政策トビックとして憲法改正が議論されるなかで、ISFJでも「新しい憲法案」を策定し、併せて提言いたしました。

企画責任者

薄井 大郎 (慶應義塾大学経済学部島田ゼミ・第9期代表)

創立10周年記念式典は、ISFJ2004の運営委員が中心となって企画・運営いたしました。



企画担当者一覧

ISFJは、大学・学部の枠を超えて集まった有志の学生によって運営されています。
ISFJ2005運営委員会は、東日本51名、西日本20名、計71名の学生によって構成されました。
このうち、ISFJ2005の各企画を統括した学生の氏名と所属ゼミを掲載いたします。（総合責任者）

参加ゼミ説明会

参加ゼミ説明会[東日本]

高橋由佳（慶應義塾大学経済学部島田ゼミ）
松山広樹（慶應義塾大学商学部跡田ゼミ）

参加ゼミ説明会[西日本]

佐々木儀広（大阪大学経済学部本間ゼミ）
北尾友佑（関西大学経済学部前川ゼミ）

ISFJ勉強会

第一回勉強会[東日本]

鈴木雅之（慶應義塾大学商学部跡田ゼミ）
古賀佑美（中央大学総合政策学部横山ゼミ）
竹中恵実（中央大学総合政策学部横山ゼミ）

第二回勉強会[西日本]

北原浩一（慶應義塾大学経済学部櫻川ゼミ）
志田原瑛（慶應義塾大学商学部跡田ゼミ）

第三回勉強会[西日本]

前島慎太郎（慶應義塾大学経済学部若杉ゼミ）
瀬間浩昭（明治大学商学部戸崎ゼミ）
北原浩一（慶應義塾大学経済学部櫻川ゼミ）

事前説明会[西日本]

山根まどか（同志社大学経済学部伊多波ゼミ）

中間発表会

中間発表会[東日本]

根本賢人（早稲田大学政治経済学部藪下ゼミ）
奥見昌彦（慶應義塾大学経済学部島田ゼミ）

第一回中間発表会[西日本]

広瀬貴章（京都大学経済学部吉田ゼミ）

第二回中間発表会[東日本]

桑井久輝（大阪大学経済学部山内ゼミ）

政策合宿

篠原土虞馬（大阪大学経済学部本間ゼミ）
前田雄志（同志社大学経済学部伊多波ゼミ）

創立10周年記念式典

薄井大郎（慶應義塾大学経済学部島田ゼミ）

論文審査委員会対応

小池将人（中央大学総合政策学部島田ゼミ）
中條遥（明治大学商学部戸崎ゼミ）
金子裕輔（慶應義塾大学経済学部島田ゼミ）

政策フォーラム

政策提言分科会統括

永井万理（慶應義塾大学経済学部島田ゼミ）
北尾友佑（関西大学経済学部前川ゼミ）

共通政策提言

北尾友佑（関西大学経済学部前川ゼミ）

基調講演

佐藤洋平（慶應義塾大学経済学部島田ゼミ）
生島慎太郎（慶應義塾大学経済学部島田ゼミ）

ゲスト講演

垂水友紀（慶應義塾大学経済学部塩沢ゼミ）

ゲスト講演

垂水友紀（慶應義塾大学経済学部塩沢ゼミ）
牧井俊介（早稲田大学政治経済学部藪下ゼミ）

パネルディスカッション

佐藤洋平（慶應義塾大学経済学部島田ゼミ）
前島慎太郎（慶應義塾大学経済学部若杉ゼミ）

パネルディスカッション

垂水友紀（慶應義塾大学経済学部塩沢ゼミ）
金子裕輔（慶應義塾大学経済学部島田ゼミ）

特別基調講演

金子裕輔（慶應義塾大学経済学部島田ゼミ）
垂水友紀（慶應義塾大学経済学部塩沢ゼミ）

閉会式統括

村上裕子（横浜市立大学商学部藤野ゼミ）

特典企画

金子裕輔（慶應義塾大学経済学部島田ゼミ）



代表

生島 慎太郎（慶應義塾大学 島田ゼミ）

副代表

金子 裕輔（慶應義塾大学 島田ゼミ）
篠原 土虞馬（大阪大学 本間ゼミ）
牧井 俊介（早稲田大学 藪下ゼミ）



2006年度へ向けて

ISFJ2006の企画運営方針

ISFJは、「学生の政策提言によって社会を変える」という理念の下で運営10年目を向かえ、国内でも有数の規模とアウトプットの質を持つ学生組織へと成長を遂げました。そうした中、ここ数年でISFJの事業規模は急速に拡大しており、参加者が増加する中でいかに提言論文の価値を向上させていくかは運営上の大きな課題となっています。

そこで、ISFJ2006では企画の内容を再編・拡充するとともに、その運営を効率化することで、急速な規模拡大に対応し、新たな10年での更なる飛躍に向けた基盤整備を進めていくことを目標とします。具体的には、以下の3つの取り組みを行っていきます。



取り組み①：ISFJ勉強会の充実

各企画の充実、とりわけISFJ勉強会の充実を目指します。具体的には、政策立案過程と各勉強会の連動性を強める、少人数制の勉強会を増設し、研究分野ごとにきめ細かいフォローを行う、グループワークを充実させ、学生同士の意見交換の機会を増やす、の3点に取り組み、政策提言論文の質を高める上でより効果的な勉強会編成にしていきます。

取り組み②：共通政策提言の強化

企画開始から3年目を迎える「共通政策提言」を、大幅に拡充します。具体的には、政策フォーラムの一部として位置づけられていたプログラムを通年化し、フィールドワーク等を取り入れた地方自治体向けの政策提言事業に改編します。このプログラムを通して、ゼミの枠を超えて共同で論文執筆や政策提言に取り組む環境の構築を目指します。

取り組み③：ゼミ対応体制の見直し

ISFJでは、参加ゼミ数の急速な増加による企画規模拡大への対応が急務となっています。将来的に全国区で事業展開を行うことも視野に入れつつ、ゼミ対応のシステムを見直す必要があります。ISFJ2006では、「情報管理室」を新設してゼミ連絡などにおける情報機能を強化するとともに、ゼミ担当者制を徹底し、各ゼミの論文執筆・政策提言のサポートが円滑に行える体制づくりを目指します。

ISFJ2006では、こうした取り組みによって、学生の政策立案環境の整備を進めていきます。そして、学生が政策マーケットの参加者として価値を発揮する社会の実現を目指し、これからも活動を続けて参ります。

皆様方におかれましては、来年度以降の活動においてもご高配賜ることができれば誠に幸いです。今後とも、ISFJ日本政策学生会議および政策フォーラムを何卒宜しくお願い申し上げます。



日本政策学生会議 2005 活動報告書¹

代表

生島 慎太郎 (慶應義塾大学法学部)

編集

牧井 俊介 (早稲田大学政治経済学部)

執筆

金子 裕輔 (慶応義塾大学経済学部)

桑井 久輝 (大阪大学経済学部)

北尾 友佑 (関西大学経済学部)

北原 浩一 (慶応義塾大学経済学部)

鈴木 雅之 (慶応義塾大学商学部)

垂水 友紀 (慶應義塾大学経済学部)

永井 万理 (慶応義塾大学経済学部)

根本 賢人 (早稲田大学政治経済学部)

広瀬 貴章 (京都大学経済学部)

前島 慎太郎 (慶應義塾大学経済学部)

牧井 俊介 (早稲田大学政治経済学部)

発行

2006年3月31日

連絡先

info@isfj.net

上記まで、メールにてお願い致します。